

iCOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER
IC-PCR100



Icom Inc.

はじめに

このたびはIC-PCR100をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、パーソナルコンピューター操作型のコミュニケーション・レシーバーです。

パーソナルコンピューターの拡張シリアルポートRS-232C端子をインターフェイスとして使用し、Windows95/98の環境に対応しています。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくと共に、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

■ユーザー登録について

本機の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。

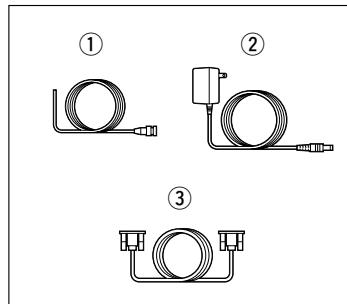
ユーザー登録は、バージョンアップ・サービスなどをご提供される際に必要となります。

■マウスのボタン操作について

マウス操作について、本書のマウス操作でクリック、ダブルクリックと記載している説明は、左(主)ボタンの操作となっています。

なお、マウスのプロパティの設定で、左ボタンを補助、右ボタンを主に設定しているときは逆の操作となります。

付属品



- ① アンテナ 1
- ② AC アダプター 1
- ③ RS-232Cケーブル 1
- ・フロッピーディスク
- ・取扱説明書
- ・愛用者カード
- ・保証書

■シリアルインターフェイス(RS-232C)ケーブルについて

本機に付属しているケーブルは、D-Sub 9ピン/メス型です。お手持ちのコンピューターのシリアル・ポートが上記以外の型の場合は、別途に変換コネクターをお買い求めください。

目次

1. 安全上のご注意	1
2. 接続について	4
3. セットアップのしかた	5
1 動作環境について	5
2 インストールについて	5
3 IC-PCR100の起動	7
4 使用するレシーバーを切り替えるには	8
5 メニューバー/ツールバーについて	9
6 IC-PCR100を終了するには	10

目次

4. 各部の名称とおもな機能	11
1. 多機能型レシーバーについて	11
2. シンプル型レシーバーについて	15
5. 基本操作	19
1. 音量の調整	19
2. SQUELCH(スケルチ)の調整	19
3. 受信モードを選ぶには	21
4. 受信周波数を設定するには	23
A 多機能型レシーバーの場合	23
B シンプル型レシーバーの場合	24
C 周波数ステップを変えるには	25
6. メモリーの操作	26
1. メモリー機能を使う	26
A メモリーチャンネルの呼び出ししかた	26
B 多機能型レシーバーの呼び出し	26
C シンプル型レシーバーの呼び出し	27
D メモリーチャンネルリストで呼び出す	28
2. メモリーの書き込みかた	29
3. メモリーの消去	29
4. メモリーチャンネルリストで編集するには	30
A メモリーチャンネルリスト上でネーム、 周波数などの追加/訂正のしかた	30
B バックネームの設定と変更	31
C バックネームでメモリーバンクを呼び出す	31
D チャンネルの挿入と削除	32
E 列幅の変更	32
5. メモリーチャンネルリストをバックアップするには	33
6. 新規ファイルの作成と保存のしかた	34
7. ファイルを開くには	34
7. スキャンの操作	35
1. スキャン機能を使用する前に	35
A スケルチの設定	35
B スキャン再開条件の設定	35
C スキャンスピードの設定	37
2. プログラムスキャン	38
A プログラムチャンネルの設定	38
B プログラムスキャンの操作	39
3. オートメモリーライトスキャン	41
4. メモリースキャン	43
5. オプション機能によるメモリースキャン時の 各種自動選局について	45
8. その他の機能	47
1. バンドスコープ機能を使うには	47
A バンドスコープの操作	47
B 周波数スパンを切り替えるには	48
C LIMIT(リミット)表示について	48
D 自動スイープステップ制限を切り替えるには	49
E ピックアップシグナルについて	50
2. 近接波による混信があるとき	50
3. 強い電波の影響で混信するときは	51
4. トーンスケルチ機能を使う	52
5. ANL(オートノイズリミッター)機能を使う	52
6. RS-232Cポートの確認と変更について	53
7. 外部スピーカーの設定について	54
8. FM文字多重放送の受信	55
A FM文字多重放送チューナーディスプレイ	56
B FM文字多重放送のオンエア情報を見るには	57
C 別の[FM文字多重放送チューナー] ウィンドウを開くには	58
D ニュースや天気予報など他の番組を見るには	58
E 表示ページを自動で切り替えるには	58
9. 外字ファイルについてのご注意	61
9. 周波数一覧表(参考資料)	62
10. 定 格	63

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した記載事項は、使用者および周囲の人への危害や財産を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■受信機本体について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなど異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、DC INコネクタに接続している電源コードを抜いてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。
- 指定以外のACアダプターは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ガス管や配電盤に接地しないでください。
感電や漏電、火災の原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 製品の中に線材のような金属物や水を入れないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 雷が鳴り出したら、安全のためソフトを終了し、本機に接続している電源コード、アンテナを抜いてください。
アンテナには絶対にさわらないでください。
落雷によって、火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所に放置しないでください。変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオのすぐ近くで使用しないでください。電波障害を受けたり、雑音が発生することがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。けが、故障の原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いて保管しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ぐらついた台や傾いたところ、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

■ ACアダプターについて

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工しないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。
- むれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。感電の原因になります。

1 安全上のご注意

■その他取り扱い上のご注意

- 電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密に関して定められています。
- IC-PCR100は広帯域受信機ですから、受信機の内部発振（スプリアス）により、受信できなかつたり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- アンテナは、コンピューターやテレビの近くに設置すると、ノイズなどの影響を受けますので、できるだけ離して設置してください。
- パーソナルやアマチュア無線を使って、本機の至近距離で送信すると、本機が誤動作する場合があります。
アンテナを1m以上離し、必要時は本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。
- 使用する地域によっては、外部アンテナを使用したり、近くに強い電波があるときに妨害を受けることがあります。
アンテナは受信周波数に合った専用のものが市販されていますが地域差や電波の状況により受信できない場合があります。
- FM/TV送信局が近くにある場合（特に東京/大阪など）、強い電波により妨害を受けやすくなりますので、このような地域においては、本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。

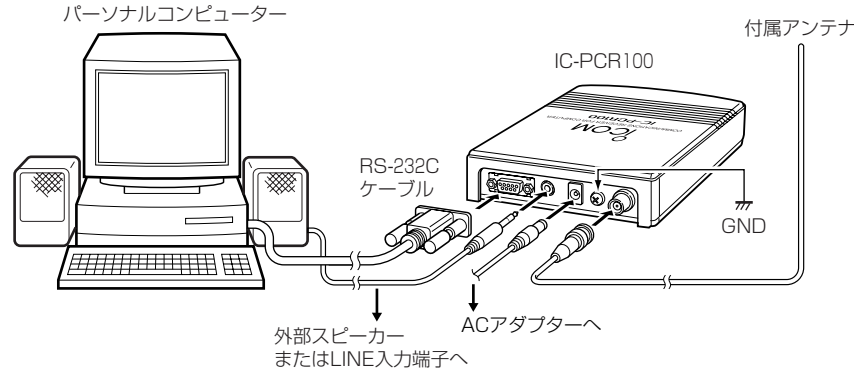
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変色したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段は柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■フロッピーディスクの取り扱い上のご注意

下記のような取り扱いを行うと、フロッピーディスクのデータが破壊されることがあります。

- アクセスカバーを開けたり、記録面を触らないでください。
- 記録面に水やホコリを付着させないでください。
- 磁石、テレビ、ラジオなど磁気を発生するものに近づけないでください。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に放置しないでください。
- フロッピーディスクの上に重いものを載せないでください。
- 折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。
- インストール中にフロッピーディスクを取り出したり、コンピューターの電源を切らないでください。
- インストール後は、フロッピーディスクをコンピューターにセットしたままにしないでください。

■接続図



■外部スピーカー接続時のご注意

本機にSTEREO(ステレオ)外部スピーカーを接続して電源を投入すると、[EXT-Speaker Setting]ダイアログボックスが表示されます。(※P54参照)

※なお、[PLUG]の設定で[MONO]を選択しているときは、表示されません。

接続している外部スピーカー(ステレオまたはモノラル)と、[EXT-Speaker Setting]ダイアログボックスの設定を確認して、[OK]ボタンをクリックしてください。

《ご注意》

[PLUG]の設定で[STEREO]を選択し、外部スピーカー端子にモノラルスピーカーを接続すると、もう一方の内蔵アンプ出力がグランドレベルとなり壊れる場合があります。必ず[STEREO]を選択したときは、ステレオスピーカーを接続してください。

■アンテナについて

本機に付属しているアンテナは、簡易アンテナですから、低い周波数帯で十分な感度を得ることができない場合があります。アンテナは、アンテナメーカーから数多く発売されていますから、用途や設置スペースに合わせて選択してください。

【例】アイコム(AICOM)のAH-7000を使用する場合

AH-7000の接続ケーブルには、N型コネクターが取り付けられています。本機のアンテナ端子はBNC型のため、N(メス)→BNC(オス)型への変換コネクターが必要となります。

- 周波数範囲：25～1300MHz

※変換コネクターは、アンテナをお買いあげの販売店にご相談ください。

3 セットアップのしかた

1 動作環境について

IC-PCR100のソフトウェアをご使用になるには、下記のソフトウェアとハードウェアが必要です。

OS	Microsoft Windows95/Windows98
CPU	i486DX4以上 (Pentium 100MHz以上を推奨)
ハードディスク	10MB以上の空き容量
メモリー	16MB以上を推奨
シリアル・インターフェイス	38400bpsが動作可能である事
ディスプレイ	640×480ドット以上 (800×600ドット以上を推奨)

上記の条件を満たすIBM/AT(互換機)

- Pentiumおよびi486は、米国Intel Corporationの登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
- IC-PCR100のソフトウェアおよびドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。
- アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

2 インストールについて

① Windowsを起動します。

Windowsがすでに起動しているときは、動作中のファイルを保存し、実行中のアプリケーションを終了してください。

② IC-PCR100 Install diskをフロッピーディスクドライブにセットします。

③ **[スタート]** ボタンをクリックし、スタートメニューの**[ファイル名を指定して実行]** コマンドをクリックします。

④ コマンドラインボックスに**[<ドライブ名>: ¥SETUP]** と入力し、**[Enter]** キーを押します。

【例】 セットアップディスクをドライブAにセットしたときは、**[A: ¥SETUP]** と入力します。

⑤ **[セットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。

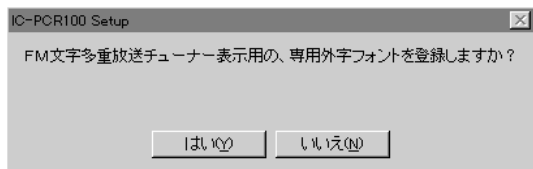
⑥ **[OK]** ボタンをクリックします。



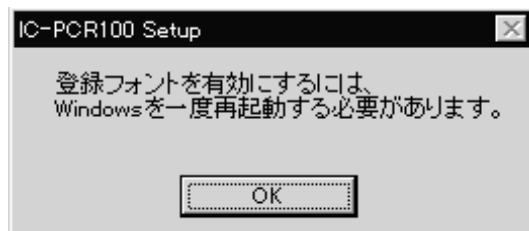
- ⑦ [IC-PCR100のセットアップを始めます。]ダイアログボックスが表示されますので、画面の指示に従って、セットアップのインストールを行います。
- ⑧ [IC-PCR100のセットアップが完了しました。]と表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



- ⑨ [FM文字多重放送チューナー表示用の、専用外字フォントを登録しますか?]と表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



- ⑩ [登録フォントを有効にするには、Windowsを一度再起動する必要があります。]と表示されますので、[OK]ボタンをクリックし、Windowsを再起動してください。



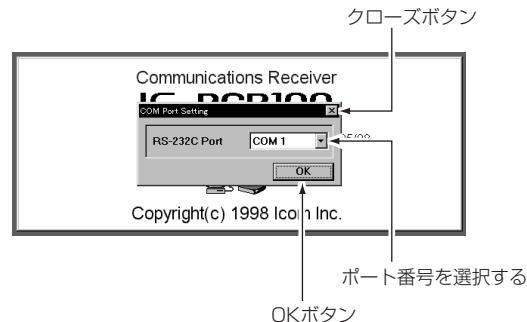
- ⑪ セットアップが終わると、スタートメニューのプログラムに [IC-PCR100]グループと [IC-PCR100]のアイコンが表示されます。
- セットアップ終了後は、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。

3 セットアップのしかた

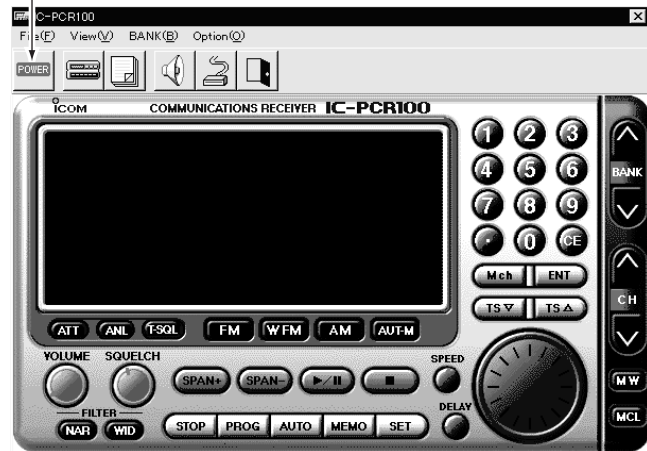
3 IC-PCR100の起動

- ①画面上で[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]をポイントします。
 - ②[IC-PCR100]のプログラムメニューに表示されない場合は、プログラムの入っているフォルダーをポイントします。
 - ③[IC-PCR100]のプログラムをクリックします。
- ※はじめて起動したときは、[COM Port Setting]ダイアログボックスが表示されます。
ポート番号を確認し、[OK]ボタンをクリックします。
- ④[POWER]ボタンをクリックするごとに、IC-PCR100本体の電源を“ON/OFF”します。

はじめて起動したときは、ポートの設定後、多機能型レシーバーが表示されます。



POWERボタン



4 使用するレシーバーを切り替えるには

使用するレシーバーに対応するツールバーのボタンをクリックします。

- ① シンプル型レシーバーを表示するには、ツールバーの[シンプル]ボタンをクリックします。
- ② 多機能型レシーバーを表示するには、シンプル型レシーバーの[MENU]ボタンをクリックします。
- ③ [Multi-Function Receiver]コマンドをクリックすると、多機能型レシーバーを表示します。

① シンプルボタンをクリックするとシンプル型レシーバーを表示する



(FM文字多重放送チューナーボタンはUT-107ユニット装置時のみ表示)

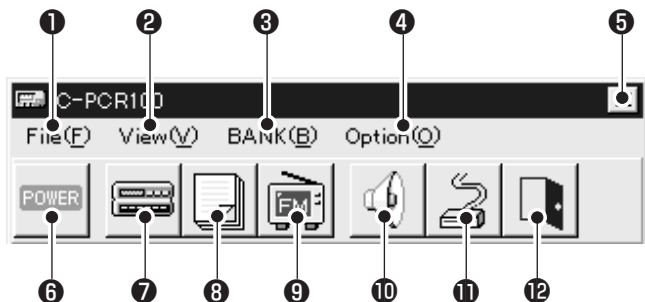
② MENUボタンをクリックする



③ Multi-Function Receiverを →
クリックする

3 セットアップのしかた

5 メニューバー / ツールバーについて



- ①メモリーチャンネルの内容を保存したり、このソフトの終了または本機の電源を“ON/OFF”します。
- ②メモリーチャンネルリスト、FM文字多重チューナー、シンプル型レシーバー、ツールバーの“表示/非表示”を切り替えます。
- ③バンクメニューを表示します。
- ④RS-232Cポート、外部スピーカーの設定をします。
- ⑤IC-PCR100のプログラムを終了します。
- ⑥本機の電源を“ON/OFF”します。
- ⑦シンプル型レシーバーを表示します。
- ⑧メモリーチャンネルリストの“表示/非表示”を切り替えます。
- ⑨オプションのUT-107(FM文字多重ユニット)装着時に表示されるアイコンで、FM文字多重放送チューナー機能を“ON”にします。
- ⑩外部スピーカーを設定します。
- ⑪使用するRS-232Cポートの設定をします。
- ⑫IC-PCR100のプログラムを終了します。

6 IC-PCR100を終了するには

A 多機能型レシーバーの終了

- ① [File] メニューをクリックします。
- ② [Exit] コマンドをクリックします。
または [クローズ] ボタンをクリックします。



(FM文字多重放送チューナーボタンはUT-107ユニット装置時のみ表示)

②Exitをクリックする

B シンプル型レシーバーの終了

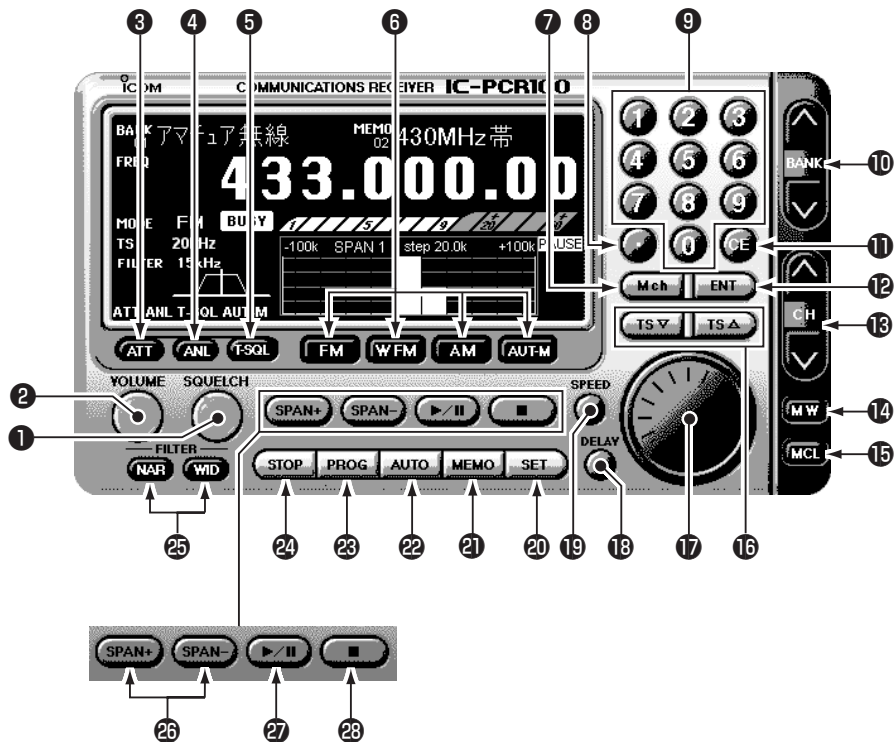
- ① ディスプレイにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックします。
- ② [Exit] コマンドをクリックします。



4 各部の名称とおもな機能

1. 多機能型レシーバーについて

A 前面パネル



①SQUELCH(スケルチ)ツマミ

スケルチレベルを調整します。

②VOLUME(音量)ツマミ

受信音量を調整します。

③ATT(アッテネーター)ボタン

入力信号を約20dB減衰するアッテネーター機能の“ON/OFF”を切り替えます。

④ANL(オートノイズリミッター)ボタン

AMモード受信時の雑音を抑圧するオートノイズリミッター機能の“ON/OFF”を切り替えます。

⑤T-SQL(トーンスケルチ)ボタン

トーンスケルチ機能のトーン周波数を設定する[TONE SQUELCH]ダイアログボックスの“表示/非表示”を切り替えます。

⑥MODE(受信モード)ボタン

受信するモード(電波型式)を切り替えます。

[AUT-M]ボタンでオートマチックモード機能も使用できます。

⑦Mch(メモリーチャンネル)ボタン

[数字]ボタンで入力した数値をメモリーチャンネルとして確定します。

⑧•(ポイント)ボタン

入力した数値のMHzケタを指定します。

⑨数字(①～⑨)ボタン

受信周波数やメモリーチャンネルを直接入力するときのボタンです。

⑩BANK(メモリーバンク)∧/∨ボタン

受信中のメモリーバンクを切り替えます。

⑪CE(クリア)ボタン

途中まで入力した数値(受信周波数またはメモリーチャンネル)を訂正します。

⑫ENT(エンター)ボタン

[数字]ボタンで入力した数値を受信周波数として確定します。

⑬CH(メモリーチャンネル)∧/∨ボタン

受信中のメモリーチャンネルを切り替えます。

⑭MW(メモリーライト)ボタン

受信中の周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。

⑮MCL(メモリークリア)ボタン

不要になったメモリーチャンネルの内容を消去します。

⑯TS(周波数ステップ)△/▽ボタン

周波数ステップを切り替えます。

⑰メインダイヤル

受信周波数を選びます。

⑱DELAY(ディレイタイム)ツマミ

信号を受信してスキャンを一時停止したときの停止時間を設定します。

⑲SPEED(スキャンスピード)ツマミ

スキャン動作のスピードを設定します。

⑳SET(セット)ボタン

スキャン機能とバンドスコープ機能、オートマチックモード機能の詳細項目を設定する[Setting]ダイアログボックスを表示します。

4 各部の名称とおもな機能

㉑MEMO(メモリスキャン)ボタン

メモリスキャンとオプション機能を使用した各種メモリスキャンの“開始/終了”を切り替えます。
スキャン中は表示ランプが点滅します。

㉒AUTO(オートメモリーライトスキャン)ボタン

オートメモリーライトスキャンの“開始/終了”を切り替えます。
スキャン中は表示ランプが点滅します。

㉓PROG(プログラムスキャン)ボタン

プログラムスキャンの“開始/終了”を切り替えます。
スキャン中は表示ランプが点滅します。

㉔STOP(ストップ)ボタン

スキャンを終了します。

㉕FILTER(IFフィルター)ボタン

使用するIFフィルターを切り替えます。

[WIDE]ボタンで広くなり、[NAR]ボタンで狭くなります。

※使用できるIFフィルターは、受信モードにより異なります。

㉖SPAN(スパン)+/-ボタン

バンドスコープの周波数スパンを4段階の中から指定します。

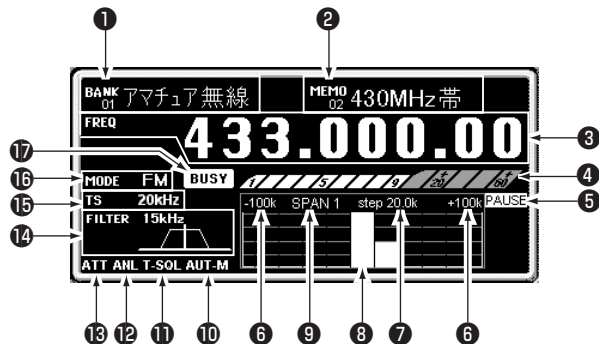
㉗▶/|| (スタート/ポーズ)ボタン

電波の状態を観測するバンドスコープ機能の“スタート(スイープを開始)/ポーズ(一時停止)”を切り替えます。

㉘■ (ストップ)ボタン

バンドスコープ機能を終了します。

B ディスプレイ



①BANK(メモリーバンク)表示

受信中のメモリーバンクとバンクネームを表示します。

②MEMO(メモリー)表示

受信中のメモリーチャンネルとメモリーネームを表示します。

③FREQ(受信周波数)表示

受信中の周波数や入力中の数値を表示します。

④SIGNAL(シグナル)表示

受信した信号の強さを指示します。また、[SQUELCH]ツマミで設定したSメータースケルチの受信レベルを指示します。

⑤PAUSE(ポーズ)/LIMIT(リミット)表示

バンドスコープ機能でスイープ中にポーズ(一時停止)していることを表示します。

周波数ステップがスイープステップの制限範囲(リミット)を超えると点灯します。

⑥周波数スパンの最大値表示

観測できる上限と下限の周波数範囲を表示します。

この図の場合、+100kHz/-100kHz表示下の実線部までが観測できる範囲になります。

⑦step(スイープステップ)表示

バンドスコープのスイープステップを表示します。

⑧中心周波数表示

周波数スパンの中心周波数を表示し、この周波数を現在受信していることを表示します。

⑨周波数スパン表示

[SPAN+/-]ボタンで選んだ4段階の周波数スパンを表示します。

⑩AUT-M(オートマチックモード)表示

オートマチックモード機能の使用中表示します。

⑪T-SQL(トーンスケルチ)表示

トーンスケルチ機能の使用中表示します。

⑫ANL(オートノイズリミッター)表示

ANL機能の使用中表示します。

⑬ATT(アッテネーター)表示

アッテネーター機能の使用中表示します。

⑭FILTER(IFフィルター)表示

使用中のIFフィルターと電波の通過幅を表示します。

⑮TS(周波数ステップ)表示

[メインダイヤル]で受信周波数を選ぶときや、スキャン機能で信号を探すときの周波数ステップを表示します。

⑯MODE(受信モード)表示

受信中のモード(電波型式)を表示し、オートマチックモード機能使用時は[AUT-M]表示も点灯します。

※WFMモード時、ステレオ放送を受信するとモード表示が赤色に替わります。

⑰BUSY(ビジー)表示

信号または雑音でスケルチが開いた状態を表示します。

4 各部の名称とおもな機能

2. シンプル型レシーバーについて

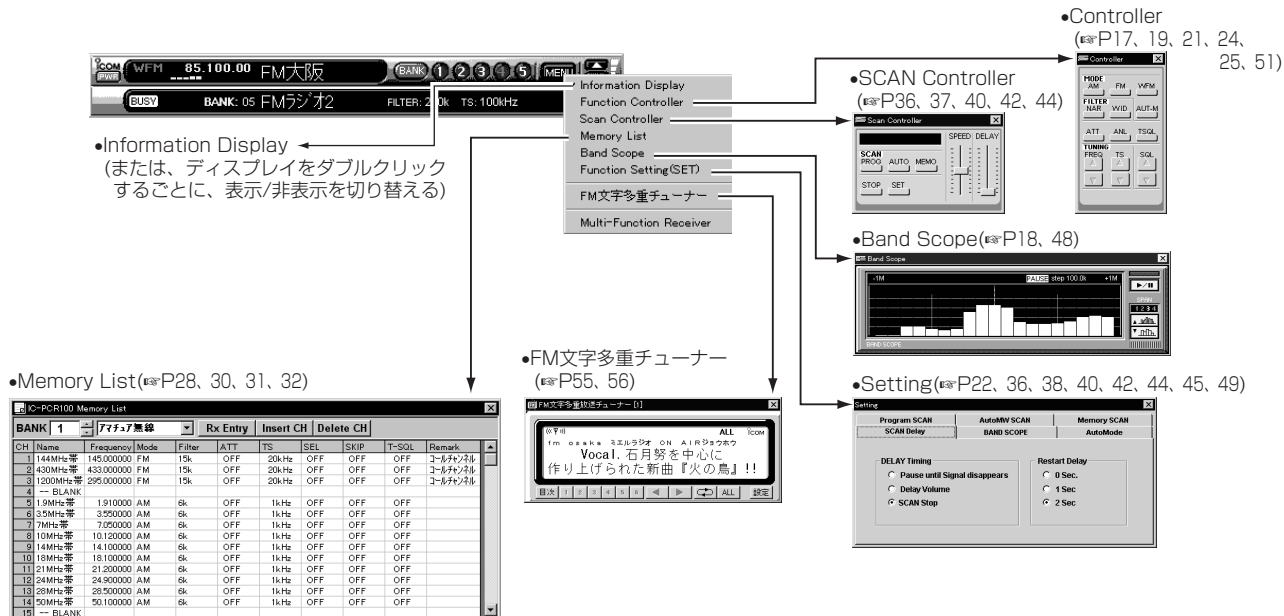
A シンプル型レシーバーの展開

■ [MENU] ボタンから展開する

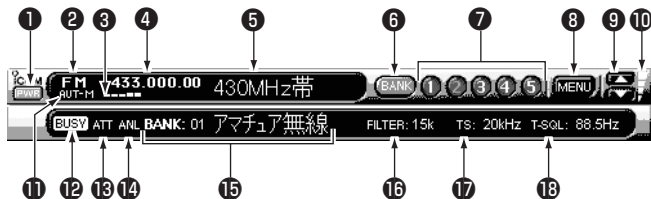
- ① [MENU] ボタンをクリックし、表示メニューを表示します。
- ② 表示メニューの各コマンドをクリックして選択します。

■ メニューコマンドから展開する

- ① ディスプレイにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックするとメニューコマンドが表示されます。
- ② [View] をポイントし、表示メニューの各コマンドを選択します。



前面パネル



①PWR(電源)ボタン

本機の電源を“ON/OFF”します。

②MODE(受信モード)表示

受信中のモード(電波型式)を表示し、オートマチックモード機能使用時は[AUT-M]表示も点灯します。

※WFMモード時、ステレオ放送を受信するとモード表示が赤色に替わります。

③SIGNAL(シグナル)表示

受信した信号の強さを指示します。また、[SQL]ボタンで設定したSメータースケルチの受信レベルを指示します。

④FREQ(受信周波数)表示

受信中の周波数や入力中の数値を表示します。

⑤メモリーネーム表示

メモリーネームを表示します。

⑥BANK(バンク)ボタン

バンクメニューを表示します。

⑦メモリーチャンネル(①～⑤)ボタン

各バンクのメモリーチャンネル“1ch～5ch”を呼び出します。呼び出した番号は赤色に切り替わります。

⑧MENU(メニュー)ボタン

各メニューの“表示/非表示”を切り替えます。

⑨音量(▲/▼)ボタン

聞きやすい音量に調整します。

⑩音量表示

音量の設定状態を表示します。

⑪AUT-M(オートマチックモード)表示

オートマチックモード機能の使用中表示します。

⑫BUSY(ビジー)表示

信号または雑音でスケルチが開いた状態を表示します。

⑬ATT(アッテネーター)表示

アッテネーター機能の使用中表示します。

⑭ANL(オートノイズリミッター)表示

ANL機能の使用中表示します。

⑮BANK(メモリーバンク)表示

受信中のメモリーバンクおよびバンクネームを表示します。

※[BANK]ボタンで表示を切り替えます。

⑯FILTER(IFフィルター)表示

使用中のIFフィルターを表示します。

※使用できるIFフィルターは、受信モードにより異なります。

⑰TS(周波数ステップ)表示

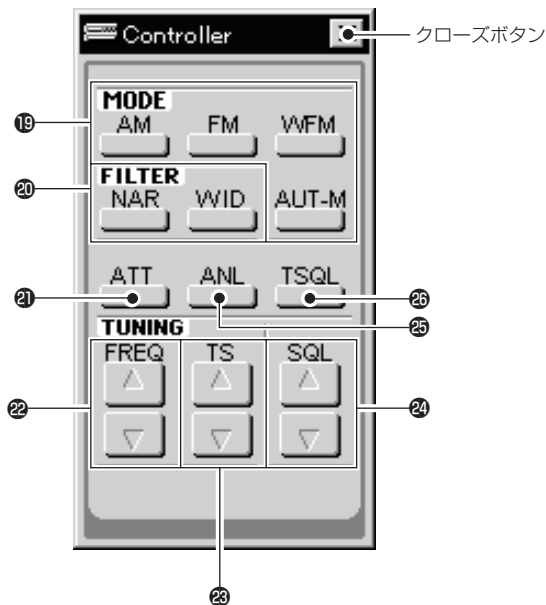
[TUNING]ボタンで受信周波数を選ぶときや、スキャン機能で信号を探すときの周波数ステップを表示します。

⑱T-SQL(トーンスケルチ)表示

トーンスケルチ機能の使用中表示します。

4 各部の名称とおもな機能

Controller表示画面



19 MODE(受信モード)ボタン

受信するモード(電波型式)を切り替えます。

[AUT-M] ボタンでオートマッチックモード機能も使用できません。

20 FILTER(IFフィルター)ボタン

使用するIFフィルターを切り替えます。

[WID] ボタンで広くなり、[NAR] ボタンで狭くなります。

※使用できるIFフィルターは、受信モードにより異なります。

21 ATT(アッテネーター)ボタン

入力信号を約20dB減衰するアッテネーター機能の“ON/OFF”を切り替えます。

22 FREQ(受信周波数)▲/▼ボタン

受信周波数を選びます。

23 TS(周波数ステップ)▲/▼ボタン

周波数ステップを切り替えます。

24 SQL(スケルチ)▲/▼ボタン

スケルチレベルを調整します。

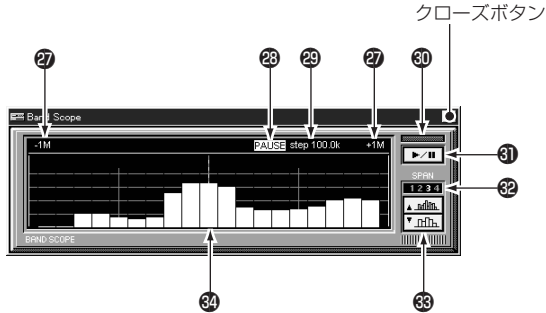
25 ANL(オートノイズリミッター)ボタン

AMモード受信時の雑音を制御するANL機能を“ON/OFF”します。

26 TSQL(トーンスケルチ)ボタン

トーンスケルチ機能のトーン周波数を設定する[TONE SQUELCH]ダイアログボックスの“表示/非表示”を切り替えます。

Band Scope表示画面



27 周波数スパン表示

[SPAN+/-]ボタンで選んだ4段階の周波数スパンを表示します。

28 PAUSE(ポーズ)/LIMIT(リミット)表示

PAUSE表示は、バンドスコープ機能でスイープ中にポーズ(一時停止)していることを表示します。

LIMIT表示は、周波数ステップがスイープステップの制限範囲(リミット)を超えると点灯します。

29 step(スイープステップ)表示

バンドスコープのスイープステップを表示します。

30 スイープ表示

バンドスコープのスイープ中を点滅して表示します。

31 ▶/|| (スタート/ポーズ) ボタン

バンドスコープ機能でスイープ中に“スタート/ポーズ(一時停止)”を切り替えます。

32 SPAN(スパン)表示

[SPAN▲/▼]ボタンで選んだ4段階の周波数スパンを表示します。

33 SPAN(スパン)▲/▼ボタン

バンドスコープの周波数スパンを4段階の中から指定します。

34 中心周波数表示

周波数スパンの中心周波数を表示し、この周波数を現在受信していることを表示します。

5

基本操作

1. 音量の調整

聞きやすい音量に調整します。

- ①多機能型レシーバーのときは、[VOLUME]ツマミにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックすると音量が上がり、左(主)ボタンをクリックすると音量が下がります。
- ②シンプル型レシーバーのときは、[音量▲]ボタンをクリックすると音量が上がり、[音量▼]ボタンをクリックすると下がります。

●多機能型レシーバー



SQUELCHツマミ

VOLUMEツマミ

2. SQUELCH(スケルチ)の調整

一定レベル以上の電波を受信しないとスピーカーから音が出ないように制限するのがスケルチ機能です。信号が出ていないときや一定レベルより弱い信号を受信しても、雑音や弱い信号が聞こえないので、快適な選局ができます。受信レベルを制限するには、以下の方法があります。

- ノイズスケルチ : 無信号時の“ザー”という雑音を消す
(AM/FMモードでIFフィルターを“6kHz/15kHz”に設定しているときに動作する)
- Sメータースケルチ: 信号の弱い電波を制限する

●シンプル型レシーバー



音量ボタン



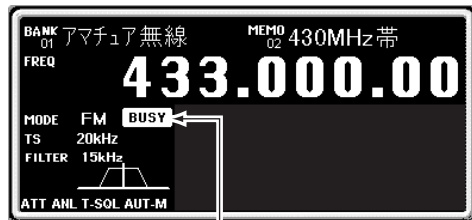
スケルチボタン

クローズボタン

■ノイズスケルチを設定するには

AM/FMモードでIFフィルターを「6または15kHz」に設定しているときに動作し、無信号時の「ザー」という雑音を消せます。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[SQUELCH]ツマミにマウスポインターを合わせ、マウスの左(主)または右(補助)ボタンをクリックして雑音が消え、BUSY表示が消えた位置に設定します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[Controller]ダイアログボックスを表示します。(☞P15参照)
- ②[SQL▲]または[SQL▼]ボタンをクリックして雑音が消え、BUSY表示が消えた位置に設定します。



[BUSY]表示が消灯する位置に設定する

■Sメータースケルチを設定するには

すべての受信モードで動作し、Sメーターに設定した受信レベル以下の電波を受信しないようにします。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[SQUELCH]ツマミにマウスポインターを合わせ、マウスの左または右ボタンをクリックして制限したいSメーターレベルを設定します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[Controller]ダイアログボックスを表示します。(☞P15参照)
- ②[SQL▲]または[SQL▼]ボタンをクリックして制限したいSメーターレベルを設定します。



Sメーターで設定した以下の受信を制限する
(図の場合S5以上の電波を受信する)

5 基本操作

3.受信モードを選ぶには

受信中のモード(電波型式)を表示します。選びたい受信モードのボタンをクリックすると、受信モードを選べます。設定できる受信モードは[AM/FM/WFM]です。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、受信モードボタンの[FM]、[WFM]、[AM]、[AUT-M]にマウスポインターを合わせ、クリックして受信モードを選択します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[Controller]ダイアログボックスを表示します。(※P15参照)
- ②受信モードボタンの[FM]、[WFM]、[AM]、[AUT-M]にマウスポインターを合わせ、クリックして受信モードを選択します。

●多機能型レシーバー



受信モードボタン

●シンプル型レシーバー



受信モードボタン

《ご注意》

受信モードが合っていないと、受信音がひずんで聞き取れなくなりますのでご注意ください。

Aオートマチックモード機能を使用するには

目的の周波数を入力するだけで、受信モードとIFフィルターの通過幅、周波数ステップを自動設定するオートマチックモード機能を搭載しています。

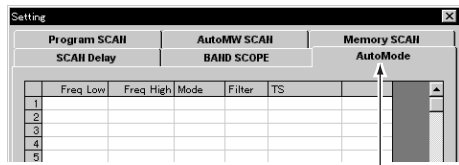
[AUT-M]ボタンをクリックすることにより、オートマチックモード機能が“ON/OFF”します。

③ オートマッチックモードを編集するには

あらかじめ設定しているオートマッチックモードの内容を追加、訂正、削除できます。

オートマッチックモードの設定は20件まで登録できます。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、**[SET]**ボタンをクリックし、**[Setting]**ダイアログボックスを表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、**[Setting]**ダイアログボックスを表示します。(※P15参照)
- ②**[AutoMode]**タブをクリックし、オートマッチックモードのリストを表示します。

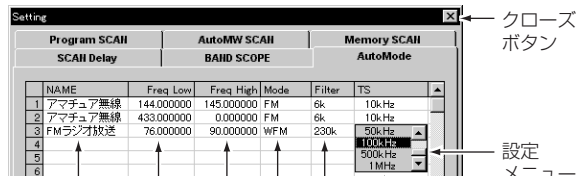


AutoModeをクリックするとオートマッチックモードリストを表示する

- ③追加したいリストの**[Freq Low]**表示欄をクリックし、周波数をキーボードから入力し、**[Enter]**キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。
この表示欄を入力しないと、他の表示欄は設定できません。

※列幅が狭くネームまたは数値などがすべて表示できないときは、列幅の変更を行ってください。(※P32参照)

- ④自動的に設定されたネームまたは周波数を訂正するときは、**[NAME]**、**[Freq Low]**、**[Freq High]**表示欄をクリックし、キーボードからネームまたは周波数を入力し、**[Enter]**キーを押します。
- ⑤電波形式、IFフィルター、周波数ステップの訂正は、訂正するリストの**[Mode]**、**[Filter]**、**[TS]**表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。
- ⑥設定メニューの中から訂正する設定値を選択し、ダブルクリックします。
または、訂正する設定値を選択し、キーボードの**[Enter]**キーを押します。



クローズボタン

設定メニュー

マウスポインターを合わせ
ダブルクリックし、キーボードか
ら入力する

マウスポインターを合わせ
設定メニューから選択する

- ⑦削除するときはリストの**[Freq Low]**表示欄にマウスポインターを合わせクリックし、キーボードの**[0]**キーを押して**[Enter]**キーを押します。
- ⑧他の表示欄を追加/訂正して**[X]**クローズボタンをクリックすると、オートマッチックモードのリストを閉じます。

5 基本操作

4. 受信周波数を設定するには

受信周波数の設定には、状況により以下の方法があります。

- ①放送や通信の周波数がわかっている場合
数字ボタンで周波数を直接入力する
- ②周波数がわからない場合や周波数を直接入力したあとにメインダイヤルまたはチューニングボタンで周波数を選ぶ

本機で使用できる入力できる周波数は「0.010～1300.000MHz」です。

A 多機能型レシーバーの場合

■メインダイヤルで周波数を選ぶには

[メインダイヤル]にマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックすると、設定している周波数ステップ(TS)で受信周波数が上がります。マウスの左(主)ボタンをクリックすると、受信周波数が下がります。各ボタンを押し続けると、早送り動作になります。



■テンキーで周波数を設定するには

【数字】ボタンをクリックして周波数を直接入力し、【ENT】ボタンをクリックすると周波数を設定できます。

《例1》0.81000MHzの設定

[0] [.] [8] [1] [ENT] とクリックします。

《例2》7.10000MHzの設定

[7] [.] [1] [ENT] とクリックします。

《例3》145.00000MHzの設定

[1] [4] [5] [ENT] とクリックします。

《例4》1296.45000MHzの設定

[1] [2] [9] [6] [.] [4] [5] [ENT] とクリックします。

《例5》1296.45000MHzから1296.78000MHz(MHz台が同じ場合)の設定

[.] [7] [8] [ENT] とクリックします。

《ご参考》

- 数値を押し間違えたときは、【CE】ボタンを押して前の周波数に戻してから、再入力してください。
- 受信範囲外の周波数を入力して【ENT】ボタンをクリックすると、以前設定していた周波数に戻ります。
- MHz以上の数値はそのまま100kHz以下の数値だけを変更したいときは、【.】ボタンのあとに【数字】ボタンと【ENT】ボタンをクリックしてください。
- 100kHz以下の数値を「0」に設定したいときは、MHz以上の数値を入力したあとに【ENT】ボタンをクリックしてください。

■シンプル型レシーバーの場合

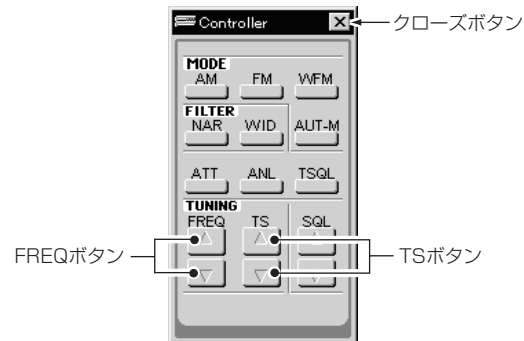
シンプル型レシーバーのときは、【Controller】ダイアログボックスを表示します。(※P15参照)

【FREQ △】ボタンをクリックすると、設定している周波数ステップ(TS)で受信周波数が上がります。

また、【FREQ ▽】ボタンをクリックすると、受信周波数が下がります。

各ボタンを押し続けると、早送り動作になります。

なお、周波数を大きく移動するときは、周波数ステップ(TS)を1MHzまたは10MHzに設定すると便利です。



5 基本操作

●周波数ステップを変えるには

[メインダイヤル]または[FREQ]ボタンで周波数を選ぶときや、スキャン機能で信号を探すときの周波数ステップを変更できます。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[TS △]または[TS ▽]ボタンをクリックして周波数ステップを選びます。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[Controller]ダイアログボックスを表示します。(☞P15参照)
- ②[TS △]または[TS ▽]ボタンをクリックして周波数ステップを選びます。

■設定できる周波数ステップ

1kHz、5kHz、6.25kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、500kHz、1MHz
プログラブル周波数ステップ(初期設定値10MHz)

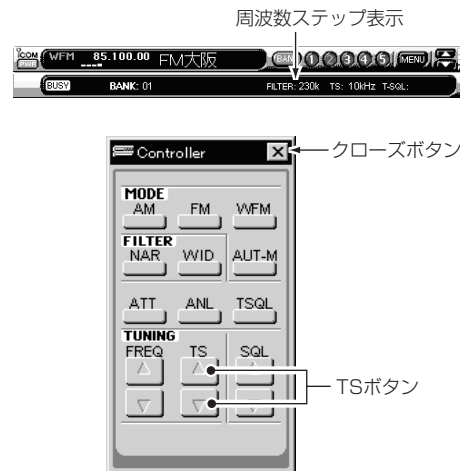
※ただし、WFMモードでの最小ステップは5kHzです。

(1kHzステップでの動作はしません。)

●多機能型レシーバー



●シンプル型レシーバー



1.メモリー機能を使う

IC-PCR100は1000チャンネルのメモリーチャンネルを持ち、メモリーチャンネルを扱いやすくするために、20グループに分けています。

そのグループ分けをメモリーバンクといいます。

それぞれのメモリーバンクには、50チャンネルのメモリーチャンネルを持っています。

Aメモリーチャンネルの呼び出しかた

メモリーチャンネルを呼び出すには、使用するレシーバーにより以下の方法があります。

①多機能型レシーバーの場合

[CH ▲/▼]ボタンで呼び出す方法と[数字]ボタンで直接呼び出す方法があります。

②シンプル型レシーバーの場合

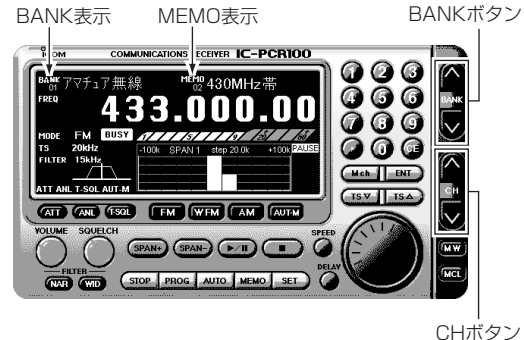
数字ボタンで呼び出します。

ただし、各バンクの1ch～5chまでの呼び出しとなります。

B多機能型レシーバーの呼び出し

■▲/▼ボタンで呼び出すには

- ①[BANK]の[▲]または[▼]ボタンをクリックしてメモリーバンクを選びます。
- ②[CH]の[▲]または[▼]ボタンをクリックしてメモリーチャンネルを選びます。



6 メモリーの操作

■数字ボタンで直接呼び出すには

[数字]ボタンをクリックして呼び出したいメモリーチャンネルの番号を入力し、[Mch]ボタンをクリックすると設定できます。入力できるメモリーチャンネルは「01～50」です。

《例1》メモリーチャンネル「02」の設定

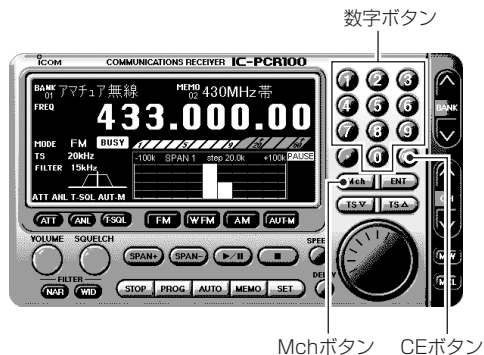
[0] [2] [Mch] または [2] [Mch] とクリックします。

《例2》メモリーチャンネル「49」の設定

[4] [9] [Mch] とクリックします。

《ご参考》

- 数値を押し間違えたときは、[CE]ボタンを押してから、再入力してください。



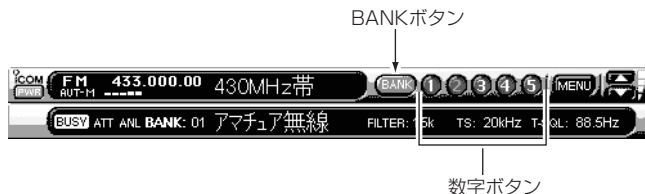
■C シンプル型レシーバーの呼び出し

①[BANK]ボタンをクリックし、バンクメニューから呼び出すバンクチャンネルをクリックします。

②[数字]ボタンを押すと、各バンクのメモリーチャンネルの1ch～5chを呼び出します。

呼び出しているメモリーチャンネルは、赤色で表示されます。

※シンプル型レシーバーでは、1ch～5chまでを[数字]ボタンで呼び出すことができます。6chから50chまでを呼び出すときは、次項の[**メモリチャンネルリストで呼び出す**]を参照してください。



☐メモリーチャンネルリストで呼び出す

- ① a多機能型レシーバーのときは、[メモリーリスト]ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。
- ① bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、表示メニューの[Memory List]コマンドをクリックするとメモリーチャンネルリストを表示します。
- ② [BANK]の[Λ]または[V]ボタンをクリックし、メモリーバンクを選びます。

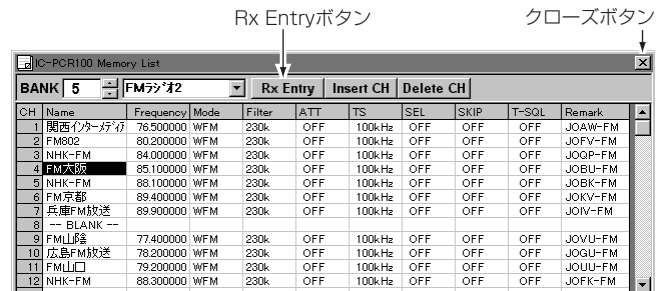
●多機能型レシーバー



(FM文字多重放送チューナーボタンはUT-107ユニット装置時のみ表示)

- ③メモリーチャンネルリスト表示の中から受信したいメモリーチャンネルのデータを選んで、[RX Entry]ボタンをクリックすると、指定したメモリーチャンネルのデータで受信します。

●シンプル型レシーバー



6 メモリーの操作

2.メモリーの書き込みかた

各メモリーバンク(01~20)には、50チャンネルのメモリーチャンネルを持ち、下記の内容を書き込みます。

バンクネーム/メモリーネーム/受信周波数(Frequency)/受信モード(Mode)/フィルター(Filter)/アッテネーター(ATT)の「ON/OFF」/周波数ステップ(TS)/トーンスケルチ(T-SQL)の「ON/OFF」と「トーン周波数」

なお、書き込んだ内容は、メモリーチャンネルリスト上でセレクトメモリスキャン用の“SEL”(セレクト)指定、メモリスキップスキャン用の“SKIP”(スキップ)指定の内容も編集できます。(※P30参照)

多機能型レシーバーで動作します。

- ①書き込みたいメモリーバンクとメモリーチャンネルを呼び出します。
- ②受信周波数や受信モードを設定したあと、[MW]ボタンをクリックするとメモリーチャンネルリストに書き込みます。

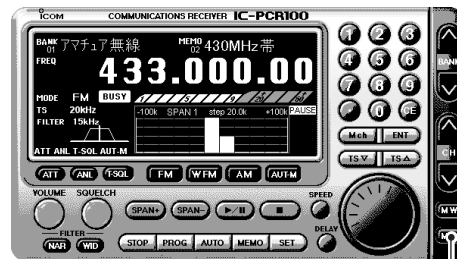


MWボタン

3.メモリーの消去

多機能型レシーバーで動作します。

- ①消去したいメモリーバンクとメモリーチャンネルを呼び出します。
- ②受信周波数や受信モードを確認したあと、[MCL]ボタンをクリックすると、指定したメモリーバンクのメモリーチャンネルを消去します。



MCLボタン

4.メモリーチャンネルリストで編集するには

▲メモリーチャンネルリスト上でネーム、周波数などの追加/訂正のしかた

メモリーチャンネルリスト上でネーム、周波数などを下記のように追加/訂正することができます。

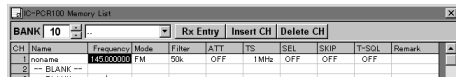
①-a多機能型レシーバーのときは、**[Memory List]**ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。

①-bシンプル型レシーバーのときは、**[MENU]**ボタンをクリックし、表示メニューを表示します。

表示メニューの**[Memory List]**コマンドをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。(※P28参照)

②追加したいリストの**[Frequency]**表示欄をクリックし、周波数をキーボードから入力し、**[Enter]**キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。

この表示欄を入力しないと、他の表示欄は設定できません。

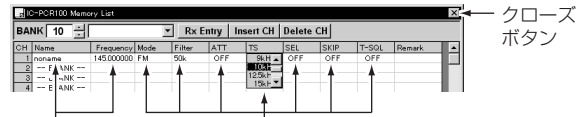


周波数を入力すると他の表示欄も自動的にデータを設定する

③自動的に設定されたネームまたは周波数を訂正するときは、**[Name]**、**[Frequency]**表示欄をクリックし、キーボードからネームまたは周波数を入力し、**[Enter]**キーを押します。

- ④受信モード(Mode)/フィルター(Filter)/アッテネーター(ATT)の「ON/OFF」/周波数ステップ(TS)/セレクトメモリースキャン用セレクト(SEL)指定/メモリスキップスキャン用スキップ(SKIP)指定/トーンスケルチ(T-SQL)の「ON/OFF」と「トーン周波数」訂正するときは、リストの**[Mode]**、**[Filter]**、**[ATT]**、**[TS]**、**[SEL]**、**[SKIP]**、**[T-SQL]**表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。
- ⑤設定メニューの中から訂正する設定値を選択し、ダブルクリックします。

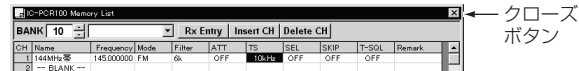
または、訂正する設定値を選択し、キーボードの**[Enter]**キーを押します。



マウスポインターを合わせて
クリックし、キーボードから
入力する

マウスポインターを合わせて
ダブルクリックし、設定メニューから選択する

●ネームと他の設定値を訂正



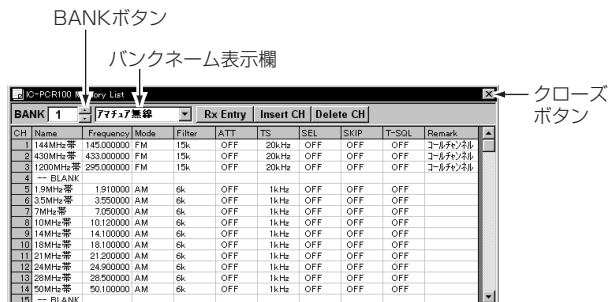
⑥削除するときはリストの**[Frequency]**表示欄にマウスポインターを合わせてクリックし、キーボードの**[O]**キーを押して**[Enter]**キーを押します。

⑦他の表示欄を追加/訂正して**[×]**クローズボタンをクリックすると、メモリーチャンネルのリストを閉じます。

6 メモリーの操作

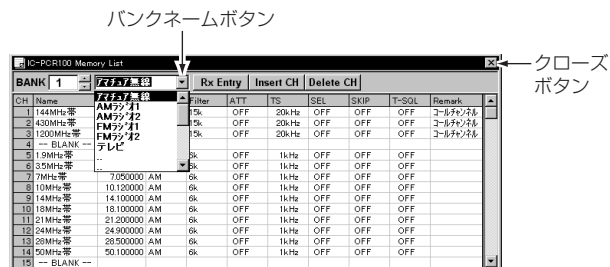
B バンクネームの設定と変更

- ① a多機能型レシーバーのときは、[メモリーリスト]ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。
- ① bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、表示メニューを表示します。
表示メニューの[Memory List]コマンドをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。(☞P28参照)
- ② [BANK]の[▲]または[▼]ボタンをクリックし、メモリーバンクを選びます。
- ③ 設定または変更したい[バンクネーム]表示欄にマウスポインターを合わせ、クリックしてバンクネーム入力状態にします。
- ④ キーボードでバンクネームを設定または変更して[Enter]キーを押します。



C バンクネームでメモリーバンクを呼び出す

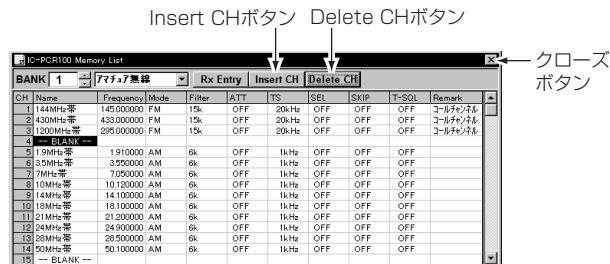
- ① a多機能型レシーバーのときは、[メモリーリスト]ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。
- ① bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、表示メニューを表示します。
表示メニューの[Memory List]コマンドをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。(☞P28参照)
- ② [バンクネーム]表示欄の[▼]ボタンをクリックすると、リストボックスを表示します。
- ③ 呼び出したいバンクネームを選んでクリックすると、指定のメモリーバンクに切り替わります。



④チャンネルの挿入と削除

新たなチャンネルをリストに挿入(インサート)、または不要のチャンネルを削除(デリート)できます。

- ① a-多機能型レシーバーのときは、[メモリーリスト]ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。
- ① b-シンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、表示メニューを表示します。
表示メニューの[Memory List]コマンドをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示します。(☞P28参照)
- ② チャンネルを挿入または削除したい位置でクリックし、[Insert CH]または[Delete CH]ボタンをクリックします。
- ③ 続けて[Insert CH]または[Delete CH]ボタンをクリックすると、同じ位置で挿入または削除を繰り返します。



[例]4chが削除または追加される

⑤列幅の変更

列幅が狭く設定したネームまたは数値がすべて表示できないときは、下記の操作を行ってください。

- ① 広げる列幅の右端にマウスポインターを合わせると、マウスポインターの表示が変わります。
- ② マウスの左(主)ボタンを押しながらドラッグして、列幅を広げマウスボタンを離します。

6 メモリーの操作

5.メモリーチャンネルリストをバックアップするには

[File]メニューの[Save]、[Save As]を使用してメモリーチャンネルリストのデータをバックアップします。

● Save(上書き保存)メニュー

既存のファイルに上書き保存する

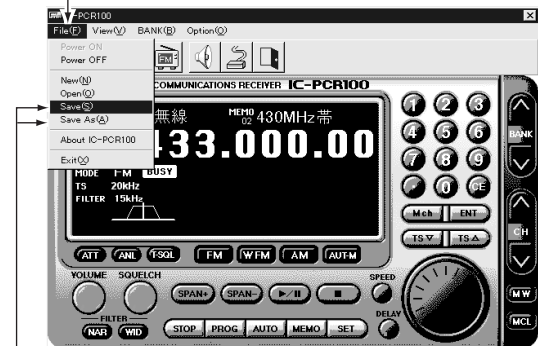
● Save As(名前を付けて保存)メニュー

元のファイルとは別にファイル名を付けて保存する

- ①多機能型レシーバーのときは、[File]ボタンをクリックし、[File]メニューの[Save]、[Save As]コマンドをクリックします。
- ②シンプル型レシーバーのときは、ディスプレイにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックし、[File]メニューの[Save]、[Save As]コマンドをクリックします。

●多機能型レシーバー

Fileをクリックする



(FM文字多重放送チューナーボタンは UT-107ユニット装置時のみ表示)

Fileメニューの
SaveまたはSave Asをクリックする

●シンプル型レシーバー

ディスプレイにマウスポインターを合わせ、
右(補助)ボタンをクリックする



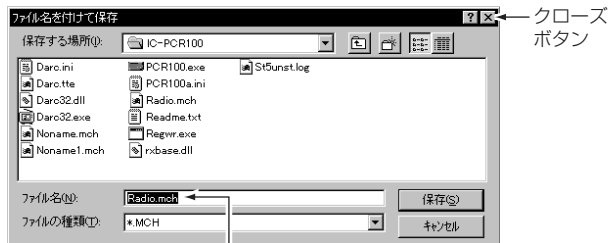
Fileメニューをポイントし、
SaveまたはSave Asをクリックする

6.新規ファイルの作成と保存のしかた

前項[5.メモリーチャンネルリストをバックアップするには]にしたがって、[File]メニューを開きます。

- ①[File]メニューの[New]をクリックすると、新規に空白のメモリーチャンネルリストを作成します。
- ②[File]メニューの[Save As]をクリックし、[ファイル名を付けて保存]ダイアログボックスを表示します。
- ③表示フォルダ以外の場所にファイルを保存するには、他のドライブまたはフォルダをクリックします。
- ④[ファイル名]ボックスにファイル名を入力し、[保存]をクリックします。

※[File]メニューの[Save]をクリックすると、現在開いているファイル名、保存場所、およびファイル形式で保存します。

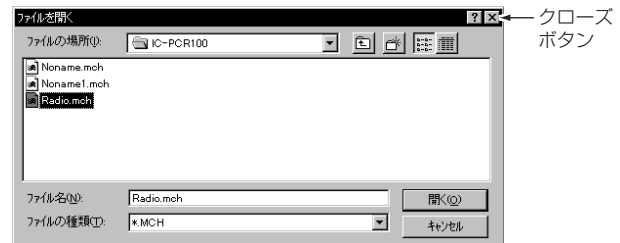


ファイル名を付けて保存をクリックする

7.ファイルを開くには

前項[5.メモリーチャンネルリストをバックアップするには]にしたがって、[File]メニューを開きます。

- ①[File]メニューの[Open]をクリックし、[ファイルを開く]ダイアログボックスを表示します。
- ②[ドライブ]ボックスでファイルを保存しているドライブをクリックします。
- ③[フォルダ]ボックスにフォルダとファイルの一覧が表示されるので、ファイルを保存しているフォルダ名をダブルクリックします。
- ④[フォルダ名]ボックスで開きたいファイル名をクリックし、[開く]をクリックします。



ファイル名を選択し、[開く]をクリックする

7 スキャンの操作

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネルを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す自動選局機能です。基本となるスキャンの種類は、プログラムスキャン、オートメモリーライトスキャン、メモリースキャンの3種類を用意しています。

- 指定した周波数範囲だけを自動選局する
プログラムスキャン、オートメモリーライトスキャン
- メモリーしている周波数を自動選局する
メモリースキャン

1. スキャン機能を使用する前に

スキャンを開始する前に下記の動作条件を設定していないと正常にスキャンしません。

また、スキャンを開始できても、信号を受信して停止しないことがあります。

- スケルチの設定
- スキャン再開条件の設定
- スキャンスピードの設定

A スケルチの設定

スキャンを機能操作する前に、[SQUELCH]ツマミ(多機能型レシーバー)または[SQL]ボタン(シンプル型レシーバー)を調整して“ザー”という雑音が消える位置にセットしてください。

(※P19、20参照)

B スキャン再開条件の設定

スキャン動作が信号を受信してオートストップしたあと、スキャンを再開するか終了するかを設定します。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[SET]ボタンをクリックし、[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[Function Setting]コマンドをクリックして[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ②[SCAN Delay]タブをクリックし、[DELAY Timing]の中から再開条件を選んでオプションボタンをクリックします。

(a) Pause until Signal disappears

信号を受信している間は一時停止し、信号が消えてから指定時間後に再開します。

(b) Delay Volume

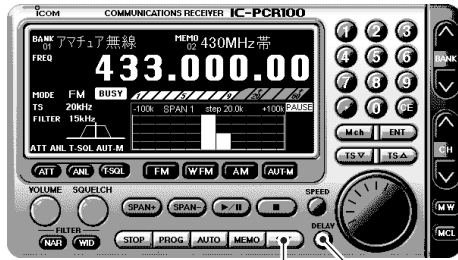
[DELAY]ツマミ(多機能型レシーバー)または[DELAY]スクロールバー(シンプル型レシーバー)で設定している遅延時間だけ一時停止して再開する途中で信号が消えると、指定時間後に再開します。

(c) SCAN Stop

停止後、スキャン動作を終了します。

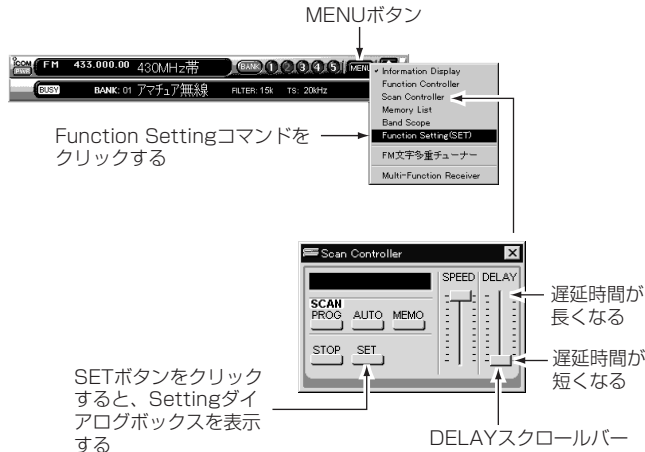
※再開の(a)または(b)を選んだときは、スキャンを再開するまでの遅延時間を[Restart Delay]の3段階の中から選べます。

●多機能型レシーバー



SETボタン DELAYツマミ

●シンプル型レシーバー



Function Settingコマンドをクリックする

SETボタンをクリックすると、Settingダイアログボックスを表示する

DELAYスクロールバー

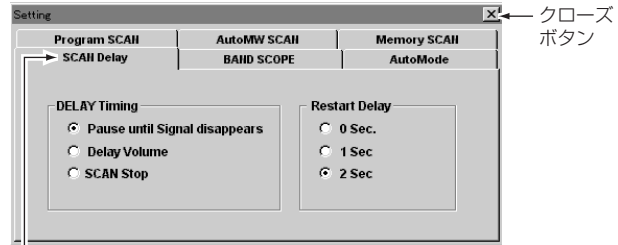
■スキヤン再開始時の遅延時間

前項「スキヤン再開条件の設定」の(a)と(b)を設定しているときに信号を受信してスキヤンが一時停止したあと、スキヤンを再開するまでの遅延時間を設定できます。

- ① [Setting] ダイアログボックスを表示します。
- ② [SCAN Delay] タブをクリックし、 [Restart Delay] の中から再開時の遅延時間を選んでオプションボタンをクリックします。
- (a) 0Sec. : 信号が消えるとすぐに再開する
- (b) 1Sec. : 信号が消えてから約1秒後に再開する
- (c) 2Sec. : 信号が消えてから約2秒後に再開する
- ③ [×] クローズボタンをクリックし、 [Setting] ダイアログボックスを閉じます。

●Settingダイアログボックス

●Settingダイアログボックス



SCAN Delayタブをクリックする

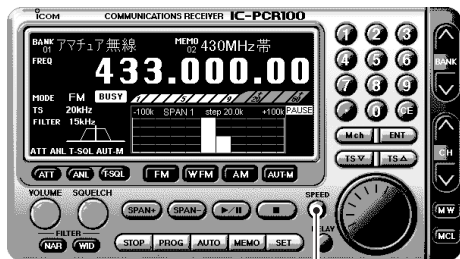
7 スキャンの操作

④ スキャンスピードの設定

スキャンスピードをお好みのスピードに可変できます。

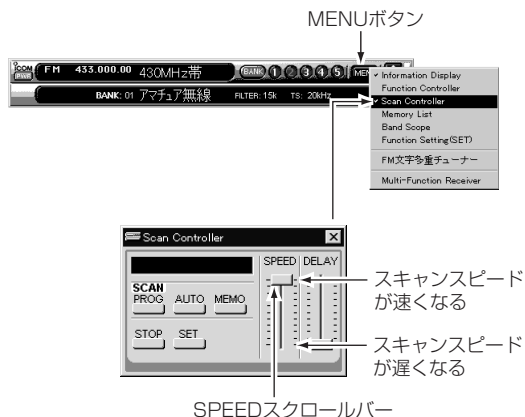
- ①-a 多機能型レシーバーのときは、[SPEED]ツマミにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックするとスキャンスピードが速くなり、左(主)ボタンをクリックするとスキャンスピードが遅くなります。
- ①-b シンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[Scan Controller]コマンドをクリックして[Scan Controller]ダイアログボックスを表示します。
- ② [SPEED]スクロールバーにマウスポインターを合わせます。
- ③ マウスの左(主)ボタンを押しながらドラッグして、スキャンスピードを設定します。

● 多機能型レシーバー



SPEEDツマミ

● シンプル型レシーバー



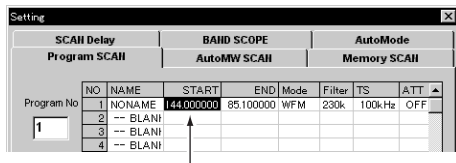
2. プログラムスキャン

プログラムスキャンは、[Setting]ダイアログボックスのプログラムリストにあらかじめ設定している周波数範囲をスキャンします。

プログラムチャンネルの設定は20件まで登録できます。

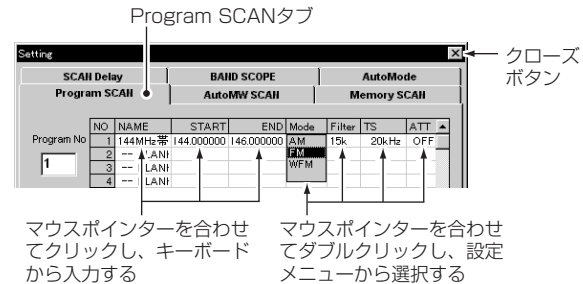
A プログラムチャンネルの設定

- ① a-多機能型レシーバーのときは、[SET]ボタンをクリックし、[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ① b-シンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[Function Setting]コマンドをクリックして[Setting]ダイアログボックスを表示します。(※P36参照)
- ② [Program SCAN]タブをクリックし、プログラムリストを表示します。
- ③ 追加したいリストの[NAME]、[START]、[END]表示欄のいずれかをクリックし、ネームまたは周波数をキーボードから入力し、[Enter]キーを押すと他の表示欄も自動的にデータを表示します。
この表示欄を入力しないと、他の表示欄は設定できません。



周波数を入力すると他の表示欄も自動的にデータを設定する

- ④ 自動的に設定されたネームまたは周波数を訂正するときは、[NAME]、[START]、[END]表示欄をクリックし、キーボードからネームまたは周波数を入力し、[Enter]キーを押します。
- ⑤ 受信モード(Mode)/フィルター(Filter)/周波数ステップ(TS)/アッテネーター(ATT)の「ON/OFF」訂正するときは、リストの[Mode]、[Filter]、[TS]、[ATT]表示欄をダブルクリックすると、それぞれの設定メニューを表示します。
- ⑥ 設定メニューの中から訂正する設定値を選択し、ダブルクリックします。
または、訂正する設定値を選択し、キーボードの[Enter]キーを押します。

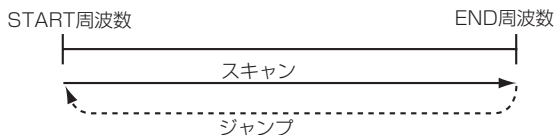


- ⑦ 削除するときはリストの[START]表示欄にマウスポインターを合わせてクリックし、キーボードの[O]キーを押して[Enter]キーを押します。
- ⑧ 他の表示欄を追加/訂正して[×]クローズボタンをクリックすると、プログラムチャンネルのリストを閉じます。

7 スキャンの操作

■プログラムスキャンの操作

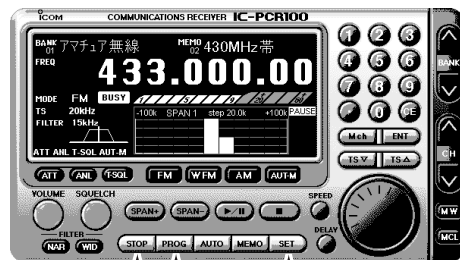
プログラムリストに設定した周波数範囲を繰り返しスキャンします。



■多機能型レシーバーの操作

- ① **[SET]** ボタンをクリックし、**[Setting]** ダイアログボックスを表示します。
- ② **[Program SCAN]** タブをクリックし、プログラムリストを表示します。
- ③ 自動選局したいプログラムチャンネルの表示欄にマウスポインターを合わせてクリックし、**[×]** クローズボタンをクリックします。
- ④ **[PROG]** ボタンをクリックすると、プログラムスキャンを開始します。
スキャン中は、**[PROG]** ボタン表示が赤色で点滅します。
- ⑤ 終了するときには**[STOP]** ボタンまたはスキャン開始時のボタンをクリックします。

※スキャン終了後に**[メインダイヤル]**などで周波数を変えたあとで、もう一度スキャンを開始すると、指定した周波数範囲のスタート周波数からスキャンを開始します。
周波数を変えていないときは、停止した周波数からスキャンを開始します。



STOPボタン
PROGボタン
SETボタン

7 スキャンの操作

3.オートメモリーライトスキャン

プログラムリストで設定した周波数範囲をスキャン中、信号を受信するたびにその周波数、MODEなどの情報を自動的に指定したメモリーバンクに書き込みます。



■多機能型レシーバーの操作

- ① [SET] ボタンをクリックし、[Setting] ダイアログボックスを表示します。
- ② [Program SCAN] タブをクリックし、プログラムリストを表示します。
- ③ 自動選局したいプログラムチャンネルにマウスポインターを合わせてクリックします。
- ④ [AutoMW SCAN] タブをクリックして[BANK] リストボックスの中からメモリー先のバンクを選び、[×] クローズボタンをクリックします。

※指定バンクのチャンネルが満杯ですとスキャンを開始しないので、下記のいずれかの処置をしてください。

- 他のメモリーバンクを選ぶ
 - [All Clear] ボタンをクリックしてデータをすべて消去する
 - 不要のメモリーチャンネルだけを呼び出して消去する
- ⑤ [AUTO] ボタンをクリックすると、オートメモリーライトスキャンを開始します。
※指定バンクのチャンネルが満杯になると、スキャンを自動的に終了します。
 - ⑥ 終了するときは [STOP] ボタンまたはスキャン開始時のボタンをクリックします。
※スキャン終了後に [メインダイヤル] など周波数を変え、もう一度スキャンを開始すると、指定した周波数範囲のスタート周波数からスキャンを開始します。
周波数を変えていないときは、停止した周波数からスキャンを開始します。



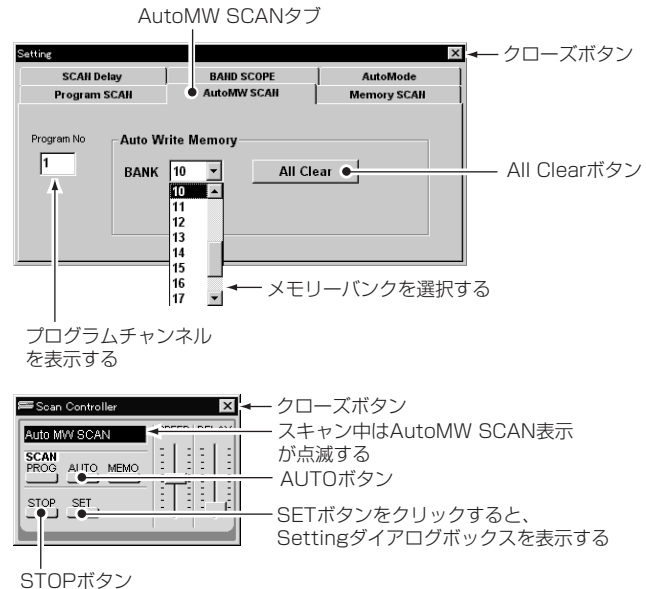
■シンプル型レシーバーの操作

- ①[MENU]ボタンをクリックし、[Function Setting]コマンドをクリックして[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ②[Program SCAN]タブをクリックし、プログラムリストを表示します。(※P40参照)
- ③自動選局したいプログラムチャンネルの表示欄にマウスポインターを合わせてクリックします。
- ④[AutoMW SCAN]タブをクリックして[BANK]リストボックスの中からメモリー先のバンクを選び、[×]クローズボタンをクリックします。

※指定バンクのチャンネルが満杯だとスキヤンを開始しないので、下記のいずれかの処置をしてください。

- 他のメモリーバンクを選ぶ
 - [All Clear]ボタンをクリックしてデータをすべて消去する
 - 不要のメモリーチャンネルだけを呼び出して消去する
- ⑤[MENU]ボタンをクリックし、[Scan Controller]コマンドをクリックして[Scan Controller]ダイアログボックスを表示します。
 - ⑥[AUTO]ボタンをクリックすると、オートメモリーライトスキヤンを開始します。
スキヤン中は、ダイアログボックスの“Auto MW SCAN”表示が点滅します。
 - ⑦終了するときは[STOP]ボタンまたはスキヤン開始時のボタンをクリックします。

※スキヤン終了後に[Controller]ダイアログボックスの[FREQ]ボタンで周波数を変え、もう一度スキヤンを開始すると、指定した周波数範囲のスタート周波数からスキヤンを開始します。
周波数を変えていないときは、停止した周波数からスキヤンを開始します。

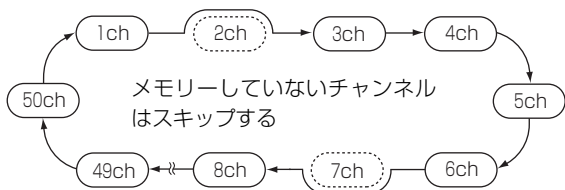


7 スキャンの操作

4.メモリスキャン

選んでいるメモリーバンクにメモリーしているすべてのメモリーチャンネルを自動選局します。

[Setting]ダイアログボックスで自動選局の各種条件を設定できます。(P45参照)



■多機能型レシーバーの操作

- ①[BANK]の[**▲**]または[**V**]ボタンをクリックし、メモリーバンクを選びます。
または、[メモリーリスト]ボタンをクリックし、メモリーチャンネルリストを表示し、メモリーバンクを選びます。
(P28、31参照)
- ②[SET]ボタンをクリックし、[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ③[Memory SCAN]タブをクリックしてチェックボックスにチェックマークが入っていないことを確認し、[×]クローズボタンをクリックします。

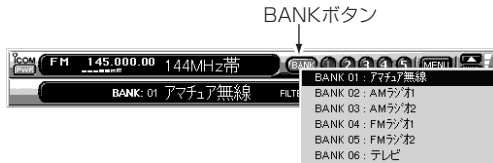
- ④[MEMO]ボタンをクリックすると、メモリスキャンを開始します。
- ⑤終了するときには[STOP]ボタンまたはスキャン開始時のボタンをクリックします。



STOPボタン
MEMOボタン
SETボタン

■ シンプル型レシーバーの操作

①[BANK]ボタンをクリックし、メモリーバンクを選びます。



②[MENU]ボタンをクリックし、[Function Setting]コマンドをクリックして[Setting]ダイアログボックスを表示します。

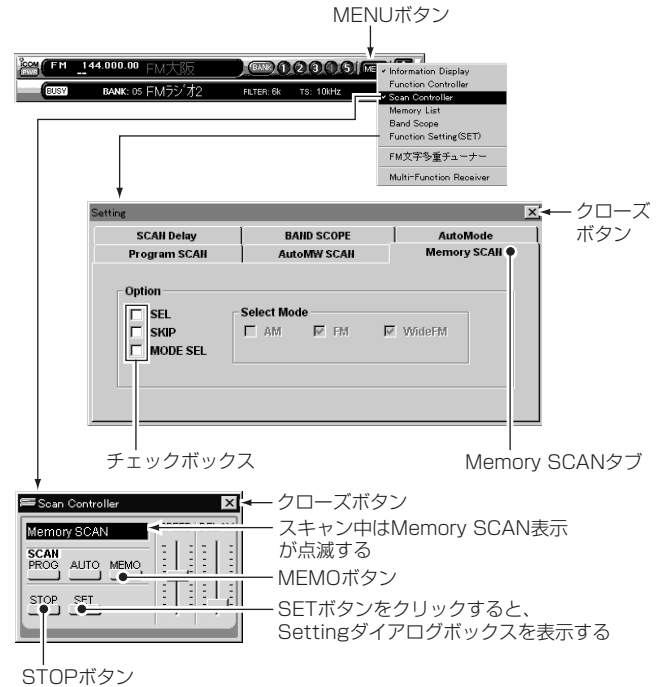
③[Memory SCAN]タブをクリックし、チェックボックスにチェックマークが入っていないことを確認し、[X]クローズボタンをクリックします。

④[MENU]ボタンをクリックし、[Scan Controller]コマンドをクリックして[Scan Controller]ダイアログボックスを表示します。

⑤[MEMO]ボタンをクリックすると、メモリスキャンを開始します。

スキャン中は、ダイアログボックスの“Memory SCAN”表示が点滅します。

⑥終了するときは[STOP]ボタンまたはスキャン開始時のボタンをクリックします。



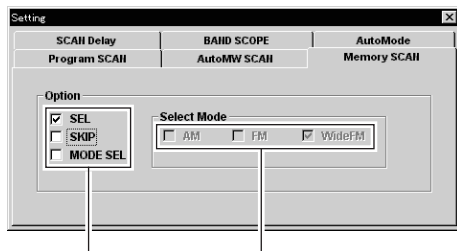
7 スキャンの操作

5. オプション機能によるメモリスキャン時の各種自動選局について

[Setting] ダイアログボックスを表示します。(※P40参照)

[Memory SCAN] タブをクリックし、メモリスキャン時のオプション機能リストを表示します。

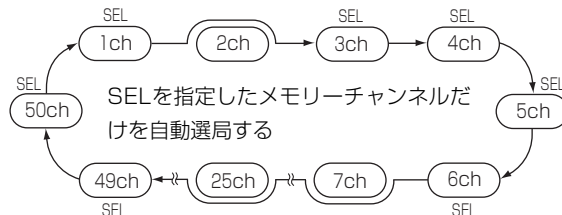
各種機能の条件を設定すればメモリスキャン操作時に指定した条件を充たすメモリーチャンネルだけを自動選局します。



チェックボックスをクリックして、メモリスキャン時に使用する機能を選択する

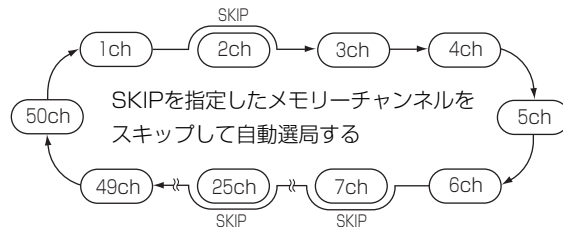
■セレクトメモリスキャン

[SEL]のチェックボックスをクリックし、メモリスキャンをスタートすると、SEL(セレクト)指定したメモリーチャンネルだけを自動選局します。



■メモリースキップスキャン

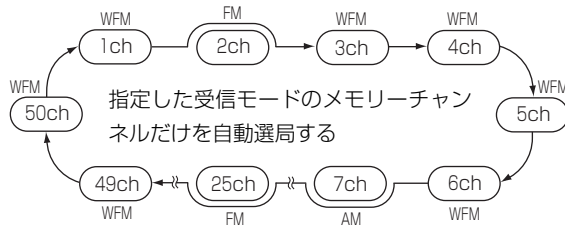
[SKIP]のチェックボックスをクリックし、メモリスキャンをスタートすると、SKIP(スキップ)指定したメモリーチャンネルを自動選局の対象からはずし(スキップ)て自動選局しません。



■セレクトモードスキヤン

[MODE SEL]のチェックボックスをクリックし、[Select Mode]のAM、FM、WideFMのチェックボックスで受信モード選択します。

メモリスキヤンをスタートすると、[Select Mode]チェックボックスで指定した受信モードのメモリーチャンネルだけを自動選局します。



《ご注意》

- [SEL]および[SKIP]の指定は、メモリーチャンネルリスト上で指定します。(P30参照)
- 指定機能の条件を2件以上メモリーしていないと、各自動選局は動作しません。
- すべてのオプション機能を組み合わせて使用することもできます。

8

その他の機能

1.バンドスコープ機能を使うには

A バンドスコープの操作

バンドスコープとは、一定の周波数範囲内で信号が出ていないかをチェックするとき、目で見えるようにした機能です。信号を探だけでなく、信号を受信しながら*近接電波のリアルタイムな状況を把握するのにも、たいへん便利な機能です。
※スイープ中は音が出ません。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、**[▶/II]**ボタンをクリックするとスイープ動作を開始し、電波の状態を左端から表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、**[MENU]**ボタンをクリックし、**[Band Scope]**コマンドをクリックしてバンドスコープを表示します。
バンドスコープの**[▶/II]**ボタンをクリックするとスイープ動作を開始し、電波の状態を左端から表示します。
- ②スイープを一時停止するには、**[▶/II]**ボタンをクリックします。
一時停止中は“PAUSE”表示が点灯します。
一時停止を解除するときも同じ操作です。
- ③スイープを終了するときには、**[■]**ボタンをクリックします。
(多機能型レシーバーのみ)

- スイープ動作を開始すると現在受信している周波数を中心に、設定している周波数スパンの範囲で観測します。
- 信号の強度を上下に表示しますので、波形が上に伸びているほど信号が強いことになります。
- スイープステップ範囲を超えた周波数ステップを設定して実際にスイープしているステップ幅が異なったり、スイープした結果を表示しきれないときは“LIMIT”を表示して知らせます。

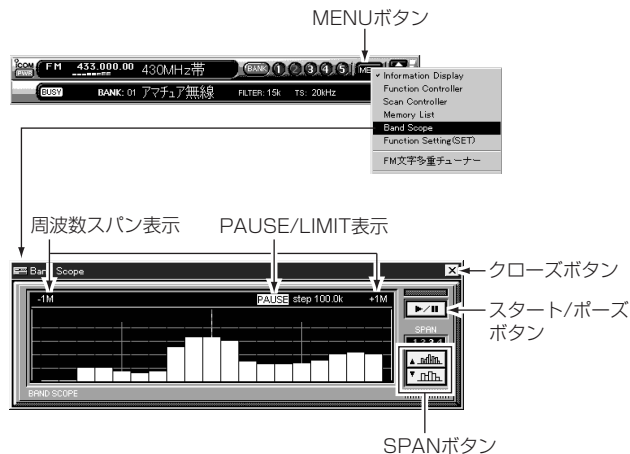
《ご注意》

スイープ動作中は、信号を受信してもスピーカーから音は出ません。

●多機能型レシーバー



● シンプル型レシーバー



□ 周波数スパンを切り替えるには

受信周波数を中心に上下何kHzまでバンドスコープに表示するかを切り替えます。

[SPAN+]または[SPAN-]ボタンをクリックするごとに、SPAN 1(±100kHz)～SPAN 4(±2MHz)までを切り替えます。信号があまり出ていないときは「SPAN 4」、信号が多いときは「SPAN 1」でご使用ください。

□ LIMIT(リミット)表示について

周波数ステップが「自動スイープステップ制限の範囲を切り替えるには」(P49参照)で設定しているスイープステップの制限範囲を超えると、“LIMIT”を表示して設定している周波数ステップ(TS表示)と実際にスイープしているステップ幅が異なっていることを知らせます。

また、バンドスコープの表示画面にスイープした結果を表示しきれないときは“LIMIT”を表示します。

8 その他の機能

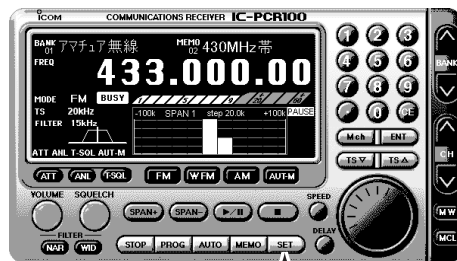
回自動スイープステップ制限を切り替えるには

周波数をスイープするときのステップ幅は、受信周波数を選ぶときの周波数ステップに対応していますが、バンドスコープ機能でスイープするときの周波数ステップは、一定の制限範囲を設けています。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[SET]ボタンをクリックし、[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[Function Setting]コマンドをクリックして[Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ②[BAND SCOPE]タブをクリックし、[Automatic Sweep-Step Limit]の中から使用する周波数ステップを選択して[×]クローズボタンをクリックします。
選べるスイープステップの制限範囲は1kHz~100kHz、1kHz~50kHz、1kHz~25kHzの中から1つです。

バンドスコープ機能使用時に、周波数ステップ(TS)が上記で設定したスイープステップの制限範囲を逸脱すると、バンドスコープの表示画面に“LIMIT”を表示して知らせます。

●多機能型レシーバー

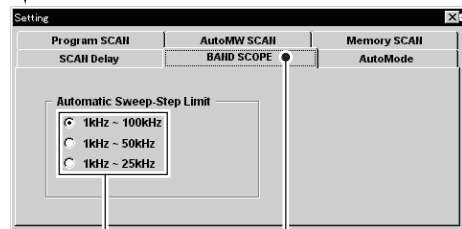


SETボタン

●シンプル型レシーバー



MENUボタン



クローズボタン

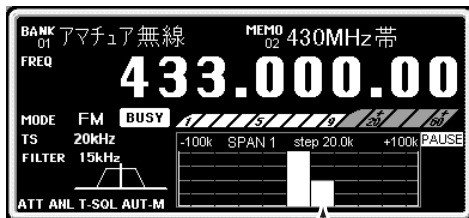
BAND SCOPEタブ

スイープステップを選択する

目ピックアップシグナルについて

バンドスコープ機能で聞きたい信号を見つけた場合、マウスポインターをその波形に合わせてクリックするだけで、すばやく周波数移行ができます。

また、スイープを一時停止(ポーズ)しているときは、受信周波数の波形をセンター位置に維持しているのので、ちょっと気になる他の信号を聞きに行ったあとで、前の信号に戻りたいというような場合に便利です。



聞きたい信号をクリックすることにより、その周波数で受信する

2.近接波による混信があるとき

IFフィルターを切り替えて、信号の入る幅を狭くして近接した電波からの混信を少なくすることができます。

選択できるフィルターは、下表のように受信モードにより異なります。

- ①多機能型レシーバーのときは、FILTERの[NAR]または[WID]ボタンをクリックするごとに、フィルターの幅が切り替わり、イメージ図が変化します。(※P51参照)
- ②シンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[Function Controller]コマンドをクリックして[Controller]ダイアログボックスを表示します。FILTERの[NAR]または[WID]ボタンをクリックするごとに、フィルターの幅が切り替わります。(※P51参照)

FILTER	AM	FM	WFM
230kHz	×	×	◎
50kHz	○	○	○
15kHz	○	◎	×
6kHz	◎	○	×

◎：工場出荷時の状態/○：選択可能/×：選択不可

8 その他の機能

3.強い電波の影響で混信するときは (ATT：アッテネーター)

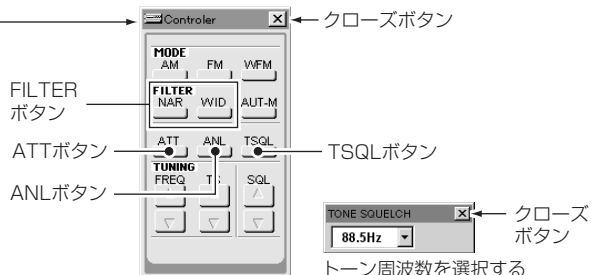
非常に強力な信号(放送局の電波、ポケットベル、近所の無線局による電波など)を受信すると、受信音がひずんで聞きにくくなったり、2波以上の信号が同時に聞こえたりします。このような現象を解消するのがアッテネーター機能で、入力信号を約20dB減衰します。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、**[ATT]**ボタンをクリックすることにより、アッテネーター機能が“ON/OFF”します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、**[MENU]**ボタンをクリックし、**[Function Controller]**コマンドをクリックして**[Controller]**ダイアログボックスを表示します。
[ATT]ボタンをクリックすることにより、アッテネーター機能が“ON/OFF”します。
- ②アッテネーター機能を“ON”にすると“ATT”を表示します。

●シンプル型レシーバー



●多機能型レシーバー



4. トーンスケルチ機能を使う

あらかじめ決められた周波数のトーン(音色)を受信しないと、スケルチが開かないようにするトーンスケルチ機能を利用した交信を聞くときに使用します。

トーンスケルチはFMモードで使用します。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、FMモードで[T-SQL]ボタンをクリックすると、[TONE SQUELCH]ダイアログボックスを表示します。(※P51参照)
[T-SQL]ボタンをクリックすることにより、トーンスケルチ機能を“ON/OFF”します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、FMモードで[MENU]ボタンをクリックし、[Function Controller]コマンドをクリックして[Controller]ダイアログボックスを表示します。
[T-SQL]ボタンをクリックすることにより、トーンスケルチ機能を“ON/OFF”します。(※P51参照)
- ②[TONE SQUELCH]ダイアログボックスの[トーン周波数]リストボックスをクリックし、リストの中からトーン周波数を選んでクリックします。(※P51参照)
※トーン周波数は、67.0～254.1Hzの51波から1波を選べます。
- ③[×]クローズボタンをクリックし[TONE SQUELCH]ダイアログボックスを閉じます。
- ④多機能型レシーバーは“T-SQL”、シンプル型レシーバーは“T-SQL：トーン周波数”を表示します。

5. ANL(オートノイズリミッター)機能を使う

雑音を抑圧するためのオートノイズリミッター機能を内蔵しています。

AM放送を受信しているとき、雑音が多い場合に使用します。オートノイズリミッター機能はAMモードで使用します。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、AMモードで[ANL]ボタンをクリックすることにより、オートノイズリミッター機能を“ON/OFF”します。(※P51参照)
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、AMモードで[MENU]ボタンをクリックし、[Function Controller]コマンドをクリックして[Controller]ダイアログボックスを表示します。
[ANL]ボタンをクリックすることにより、オートノイズリミッター機能を“ON/OFF”します。(※P51参照)
- ②オートノイズリミッター機能を“ON”にすると“ANL”を表示します。

8 その他の機能

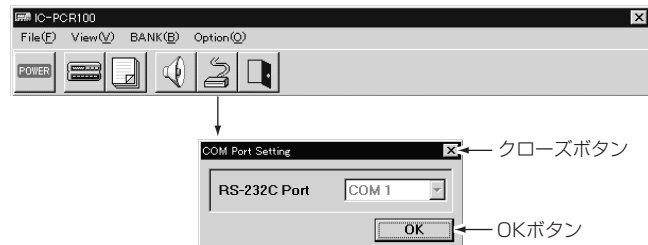
6.RS-232Cポートの確認と変更について

- ①-a多機能型レシーバーのときは、[PORT]ボタンをクリックし、[COM Port Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、ディスプレイにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックし、[Option]メニューの[COM Port]コマンドをクリックします。

[COM Port Setting]ダイアログボックスを表示します。

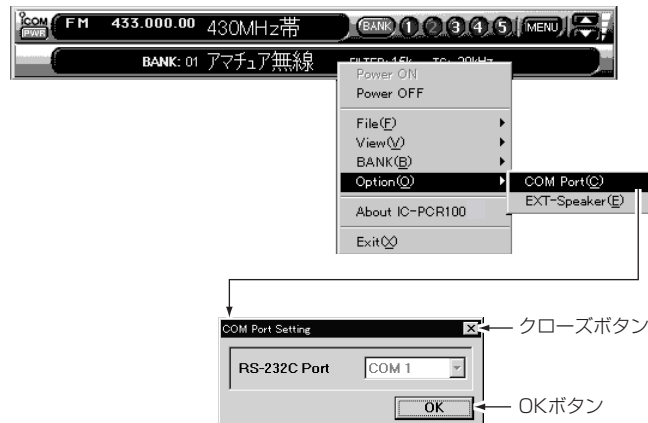
- ②ポート番号を確認し、[OK]ボタンをクリックします。
- ③ポート番号を変更したいときは、[POWER]ボタンをクリックし、いったんプログラムを“OFF”にします。
- ④上記を参照して[COM Port Setting]ダイアログボックスを表示します。
- ⑤[COM Port Setting]ダイアログボックスの[COM]ボックスの中から割り当てるポートのCOM番号を選んでクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

●多機能型レシーバー



●シンプル型レシーバー

ディスプレイにマウスポインターを合わせ、
右(補助)ボタンをクリックする



7.外部スピーカーの設定について

①-a多機能型レシーバーのときは、[SPEAKER]ボタンをクリックし、[EXT-Speaker Setting]ダイアログボックスを表示します。

①-bシンプル型レシーバーのときは、ディスプレイにマウスポインターを合わせ、マウスの右(補助)ボタンをクリックし、[Option]メニューの[EXT-Speaker]コマンドをクリックします。

[EXT-Speaker Setting]ダイアログボックスを表示します。

②[PLUG]の中から接続するスピーカーを選択します。

③[OUT-LEVEL]の中からスピーカーまたはライン出力で使用するかを選択します。

※コンピューターのスピーカーを使用するときは、[OUT-LEVEL]を[LINE]出力に切り替えてください。

ヘッドホンを使用するときも同様に切り替えてください。

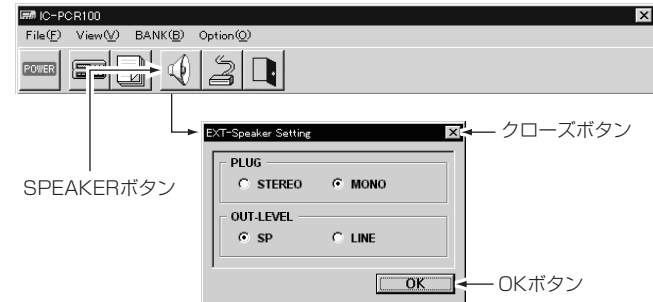
④[PLUG]または[OUT-LEVEL]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

※スピーカーの接続についてはP4をご覧ください。

《ご注意》

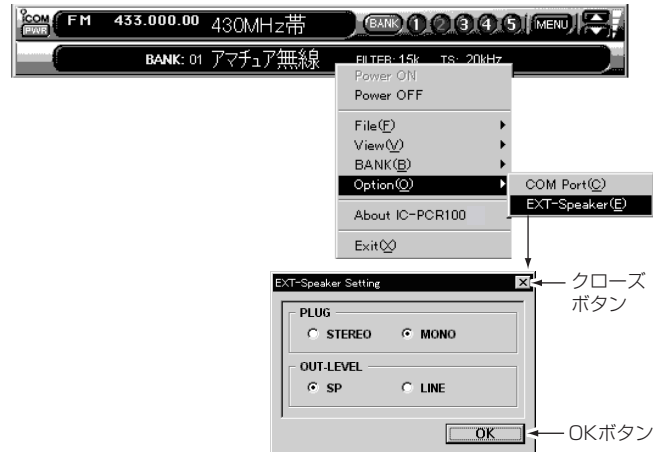
[PLUG]の設定で[STEREO]を選択し、外部スピーカー端子にモノラルスピーカーを接続すると、もう一方の内蔵アンプの出力がグランドレベルとなり壊れる場合があります。必ず[STEREO]を選択したときは、ステレオスピーカーを接続してください。

●多機能型レシーバー



●シンプル型レシーバー

ディスプレイにマウスポインターを合わせ、右(補助)ボタンをクリックする



8 その他の機能

8.FM文字多重放送の受信

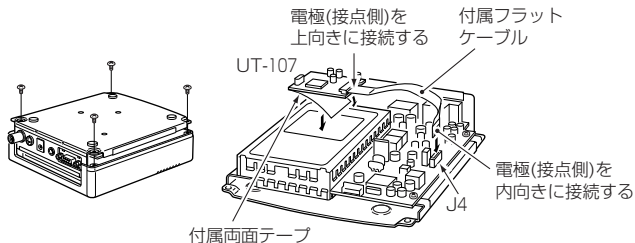
FM文字多重放送とは、FMラジオの音声番組と同時に文字情報を送信する放送サービスのことをいい、放送局の系列によって「見えるラジオ」、「アラジン」などと呼ばれています。

サービス内容は、ラジオ放送に関するオンエア(番組)情報、ニュースや天気予報などのさまざまな生活情報などです。

FM文字多重放送を受信するには、オプションのUT-107(FM文字多重ユニット)が必要です。

■UT-107の取り付け方法

- ①カバーを取り付けている4本のネジをはずします。
- ②付属のフラットケーブルをUT-107とMAINユニットのJ4に接続します。『電極(接点側)の向きを確認して接続します。』
- ③付属の両面テープでMAINユニットのシールドカバー(凹部)に張り付けます。
- ④カバーを元どおり取り付けます。



《UT-107 取り付け時のご注意》

- UT-107を取り付けるときは、必ずDC電源コードや他の接続コードをはずしてから行ってください。
- UT-107を静電気の発生しやすい場所に放置しないでください。静電気の影響で故障することがありますので、取り扱いにご注意ください。

■FM文字多重放送チューナーの表示のしかた

●多機能型レシーバー

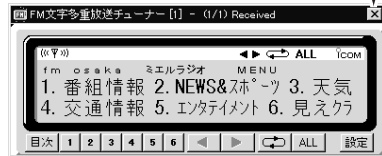


FM文字多重放送チューナーボタン

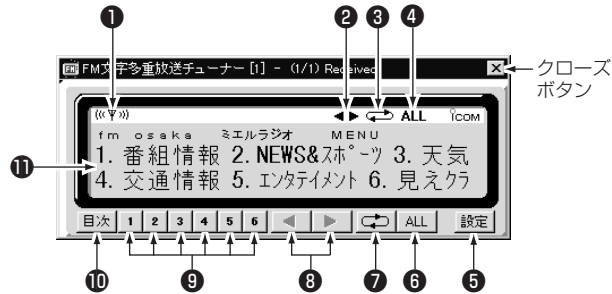
●シンプル型レシーバー



クローズボタン



FM文字多重放送チューナーディスプレイ



①コンディション表示

文字放送の受信状態を表示します。

文字放送を受信すると点灯し、受信状態があまり良くないときは点滅します。

②ページ切り替え表示

表示ページ切り替えボタンが有効のとき点灯し、切り替えできる方向を表示します。

③自動ページ切り替え表示

自動ページ切り替え機能使用中を表示し、マークが回ります。

④ALL(切り替え方式)表示

表示点灯時は全番組、消灯時は表示番組内を自動的に切り替えます。

⑤設定ボタン

画面の表示方法や自動ページ切り替え機能の速度など、各種設定をするときのボタンです。

⑥ALL(切り替え方式)ボタン

自動ページ切り替え機能使用中に有効となるボタンで、切り替え範囲を全番組にするか、表示番組内だけにするかを選ぶボタンです。

ALL表示を点灯させると全番組を自動で送ります。

⑦自動ページ切り替えボタン

表示ページを自動で送るときのボタンです。

また、使用中は自動ページ切り替え表示が点灯します。

⑧ページ切り替えボタン

表示ページを戻す、または送るときのボタンです。

切り替えできる方向のボタンが点灯するとともに、ページ切り替え表示部にも表示します。

⑨1~6(数字)ボタン

番組やページを切り替えるボタンです。

⑩目次ボタン

受信した放送局の全番組リストを閲覧するときのボタンです。

⑪番組表示画面

選んだ番組の情報をページごとに表示します

8 その他の機能

FM文字多重放送のオンエア情報を見るには

FM文字多重放送を受信すると、自動的に全番組の中から「オンエア(番組)情報」という番組が表示されます。

「オンエア(番組)情報」はFMラジオの音声放送に関する情報のことで、今流れている曲のタイトルやアーティスト名、リクエストの宛先や受付時間などの情報を次つぎと送ってきます。

①-a多機能型レシーバーのときは、ツールバーの[FM文字多重チューナー]ボタンをクリックして[FM文字多重放送チューナー]を表示します。(☞P55参照)

①-bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[FM文字多重チューナー]コマンドをクリックして[FM文字多重チューナー]を表示します。(☞P55参照)

②いずれかのレシーバーで、FMラジオの放送局を選んで受信します。

※「受信中です しばらくお待ちください」のメッセージを表示し、受信した情報を表示できる準備ができれば番組表示画面に表示されます。

③FM文字多重放送を受信すると、自動的に全番組の中から「オンエア(番組)情報」という番組が表示されます。

※最新の情報を記憶していますので、前のページに戻りたいときは、ページ切り替えボタンの[◀]をクリックします。

④FM文字多重放送の受信を終了したいときは、[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウの[×]クローズボタンをクリックしてください。

《その他のご注意》

- 受信した内容は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 「受信できません」のメッセージが表示されたときは、受信状態が悪いか、選んだ放送局がFM文字多重放送を実施していません。
- コンピューター、テレビ、蛍光灯などからの雑音により、FM文字放送が受信できない場合があります。アンテナをコンピューターなどからできるだけ離し、窓際など電波の強い場所に取り付けてください。
- 番組表示画面の左上隅にあるコンディション表示“◀▶”が点灯していれば安定した受信ができます。コンディション表示が点灯しないときはアンテナの設置場所を変えてみてください。
- 雑音が多く受信状態が悪いときは、サテライト局を探してみてください。サテライト局とは、親局から離れた電波の弱い地域の受信状態を改善するため、別の周波数で放送している中継局のことです。
- UT-107は、日本国内用です。海外では放送方式が異なるため、FM文字放送を受信することができません。
- VICS(交通情報サービス)、緊急情報には対応していないため、受信することはできません。

㊦別の[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウを開くには

FM文字多重放送チューナーを複数開くことで、違う番組を同時に見ることができます。

- ①-a多機能型レシーバーのときは、ツールバーの[FM文字多重チューナー]ボタンをクリックすると、複数の[FM文字多重放送チューナー]を表示します。
- ①-bシンプル型レシーバーのときは、[MENU]ボタンをクリックし、[FM文字多重チューナー]コマンドをクリックすると、複数の[FM文字多重チューナー]を表示します。
- ②特定の[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウを閉じたいときは、[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウの[×]クローズボタンをクリックしてください。

㊦ニュースや天気予報など他の番組を見るには

FM文字多重放送では、「オンエア(番組)情報」以外にニュースやスポーツ、天気予報、交通情報などの番組も見ることができます。

- ①「FM文字多重放送のオンエア情報を見るには」にしたがってFM文字多重放送を受信します。
※「オンエア(番組)情報」が表示されます。
- ②[目次]ボタンが点灯したらクリックし、全番組リストのデータを取り込みます。
※[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウのタイトルバーに文字情報の総ページ数と、現在までに受信しているページ数を表示(番組によっては表示されない番組もあります)します。

- ③全番組リストの中から見たい番組の目次番号に該当する数字ボタンをクリックします。

※選んだ番組が番組表示画面に表示されます。

- ④表示ページを送りたいときは[▶]ボタンをクリックし、前のページに戻りたいときは[◀]ボタンをクリックします。

㊦表示ページを自動で切り替えるには (自動ページ切り替え機能)

表示ページを手動で送るのではなく、自動で送ることができます。また、ページの切り替え範囲を全番組にするか、表示番組内だけにするかを選べます。

- ①[ALL](自動ページ切り替え)ボタンをクリックすると、表示ページを自動で送ります。
- ②[ALL]ボタンをクリックするごとに、番組表示画面の上部に“ALL”表示が点灯、または消灯します。
ALL表示を点灯させると全番組を自動で送ります。
- ③自動切り替えを解除するときは、もう一度[ALL](自動ページ切り替え)ボタンをクリックします。

※上記の設定は、[設定]ダイアログボックス内でも設定できます。

8 その他の機能

(1)画面の表示方法を変えるには

操作ボタンを表示する“**Aタイプ**”と、番組表示画面だけを表示する“**Bタイプ**”の中から[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウを選べます。また、“**Bタイプ**”選択時は画面のサイズを自由に変更できます。

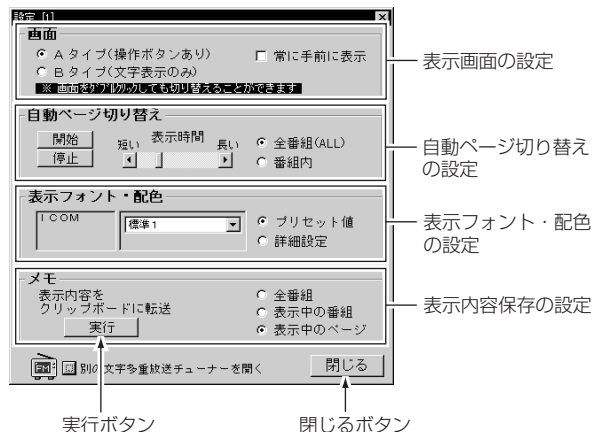
①番組表示画面をダブルクリックすることにより、“**Aタイプ**”または“**Bタイプ**”を繰り返します。

※上記の設定は、**[設定]**ダイアログボックス内でも設定できます。また、**[設定]**ダイアログボックスで設定できる機能は、それぞれのウィンドウに個別に設定できます。

②“**Bタイプ**”の画面サイズを変更したいときは、ウィンドウ枠の端をポイントしてマウスポインタの形をサイズ変更用(⇔)にし、左右または上下にドラッグします。

■[設定]ダイアログボックスで変えるには

- ①**[設定]**ダイアログボックスを表示します。
- ②“**Aタイプ**”または“**Bタイプ**”のチェックボックスをクリックし、チェックマークを入れます。
- ③**[閉じる]**ボタンをクリックし、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。



(2)[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウを手前に表示するには

他のアプリケーションを開いても、**[FM文字多重放送チューナー]**ウィンドウを手前に優先表示するように設定できます。

- ①**[設定]**ダイアログボックスを表示します。
- ②**[常に手前に表示]**チェックボックスをクリックし、チェックマークを入れます。
解除するときは、もう一度クリックしてください。
- ③**[閉じる]**ボタンをクリックし、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

(3)表示ページの切り替え速度を変えるには

自動ページ切り替え機能を使用しているときの、切り替え速度を変更できます。

- ①**[設定]**ダイアログボックスを表示します。
- ②**[表示時間]**スクロールバーのツマミを右にドラッグすると切り替え速度は遅くなり、左にドラッグすると速くなります。
- ③**[閉じる]**ボタンをクリックし、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

(4)表示の設定を変えるには

[FM文字多重放送チューナー]ウィンドウごとに、番組表示画面の表示をお好みに合わせてアレンジできます。プリセット値には、あらかじめ20種類の表示サンプルを用意しています。

- ①**[設定]**ダイアログボックスを表示します。
- ②プリセット値の中から選ぶときは、**[プリセット値]**ボックスの一覧の項目をクリックし、表示デザインを選びます。
- ③詳細設定のときは、必要に応じて**[フォント]**または**[文字色]**、**[背景色]**ボタンをクリックし、それぞれのダイアログボックスを表示して個別に変更してください。
- ④**[閉じる]**ボタンをクリックし、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

(5)表示内容を保存するには

文字情報をいったん保存したあとで見たり、すべてのページをまとめて見ることができます。

- ①**[設定]**ダイアログボックスを表示します。
- ②保存したい内容(全番組または表示中の番組、表示中のページ)を選んでボタンをクリックし、**[実行]**ボタンをクリックして文字情報をクリップボードに転送します。
- ③**[閉じる]**ボタンをクリックし、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

《ご参考》

クリップボードに転送した内容は、メモ帳や他のワープロソフトに貼り付けできます。

8 その他の機能

9. 外字ファイルについてのご注意

インストール時に専用外字ファイルが正しく登録できなかったときは、FM文字多重放送の天気予報番組などで、晴れや雨を表す太陽や傘のマークなどが「・」で表示されることがあります。このような症状が発生したときは、Windowsを再起動してください。

IC-PCR100に付属のソフトウェアをインストール後、Windowsを再起動しないと外字を正しく表示できません。再起動しても同じ症状の場合は、下記の手順にしたがって操作してください。

なお、Windows 95とWindows 98では、点線で表示している操作手順がことなりますので、ご注意ください。

①画面上で[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]→[アクセサリ]→[外字エディタ]をポイントして[外字エディタ]*を起動します。(Windows 95)

●画面上で[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]→[アクセサリ]→[外字エディタ]をポイントして[外字エディタ]*上に起動した[コードの選択]の[OK]ボタンをクリックします。(Windows 98)

※Windows 95/98の[アクセサリ]の中に[外字エディタ]がないときは、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]で[外字エディタ]を登録してください。

②[ファイル]メニューから[フォントの選択](Windows 95)/[フォントのリンク](Windows 98)を選びます。

③[外字フォントの種類]の中から[書体を意識した外字](Windows 95)/[指定したフォントにリンクする](Windows 98)を選びます。

④[関連付けるフォント]の中から[MS ゴシック]を選び、[変更]ボタンをクリックして[外字ファイル名の変更]を表示します。(Windows 95)

●[フォントの選択]の中から[MS ゴシック]を選び、[名前をつけて保存]ボタンをクリックします。(Windows 98)

⑤[保存する場所]をWindowsのシステムディレクトリに変更します。

⑥[Darc.tte]を選び、[保存]ボタンをクリックすると、表示が「未選択」から「DARC」に変化します。

⑦上記の④から⑥を繰り返し、「MS Pゴシック」、「MS 明朝」、「MS P明朝」も「未選択」から「Darc.tte」に変更して[OK]ボタンをクリックします。

⑧[外字エディタ]を終了してWindows 95/98を再起動し、プログラムを起動すると外字が有効になります。

■受信周波数範囲と電波型式/周波数ステップ一覧表

周波数帯 (※受信できない周波数もあります。)	電波型式	周波数ステップ
0.10000~1.62000MHz	AM	9kHz
1.62000~29.99500MHz	AM	5kHz
30.00000~35.52500MHz	FM	10kHz
35.53000~50.99500MHz	AM	5kHz
51.00000~53.99500MHz	FM	20kHz
54.00000~75.99500MHz	FM	5kHz
76.00000~107.99500MHz	WFM	100kHz
108.00000~135.99500MHz	AM	25kHz
136.00000~143.99500MHz	FM	10kHz
144.00000~145.99500MHz	FM	20kHz
146.00000~155.99500MHz	FM	10kHz
156.00000~175.74500MHz	FM	25kHz
175.75000~221.75000MHz	WFM	1MHz
221.80000~250.99500MHz	AM	100kHz
251.00000~252.89500MHz	FM	12.5kHz
255.00000~335.99500MHz	AM	100kHz
336.00000~429.99500MHz	FM	12.5kHz
430.00000~439.99500MHz	FM	20kHz
440.00000~475.74500MHz	FM	12.5kHz
475.75000~769.75500MHz	WFM	1MHz
769.80000~914.89500MHz	FM	12.5kHz
960.00000~1259.99500MHz	WFM	25kHz
1260.00000~1300.00000MHz	FM	20kHz

※上記の表は、周波数、電波型式、周波数ステップなど目的局をとらえやすくしたものです。

受信できない周波数帯も含まれていますので、ご了承願います。

■国内テレビ放送(音声)の周波数

チャンネル番号	音声周波数	チャンネル番号	音声周波数
VHF 1CH	95.750MHz	UHF 32CH	589.750MHz
VHF 2CH	101.750MHz	UHF 33CH	595.750MHz
VHF 3CH	107.750MHz	UHF 34CH	601.750MHz
VHF 4CH	175.750MHz	UHF 35CH	607.750MHz
VHF 5CH	181.750MHz	UHF 36CH	613.750MHz
VHF 6CH	187.750MHz	UHF 37CH	619.750MHz
VHF 7CH	193.750MHz	UHF 38CH	625.750MHz
VHF 8CH	197.750MHz	UHF 39CH	631.750MHz
VHF 9CH	203.750MHz	UHF 40CH	637.750MHz
VHF 10CH	209.750MHz	UHF 41CH	643.750MHz
VHF 11CH	215.750MHz	UHF 42CH	649.750MHz
VHF 12CH	221.750MHz	UHF 43CH	655.750MHz
UHF 13CH	475.750MHz	UHF 44CH	661.750MHz
UHF 14CH	481.750MHz	UHF 45CH	667.750MHz
UHF 15CH	487.750MHz	UHF 46CH	673.750MHz
UHF 16CH	493.750MHz	UHF 47CH	679.750MHz
UHF 17CH	499.750MHz	UHF 48CH	685.750MHz
UHF 18CH	505.750MHz	UHF 49CH	691.750MHz
UHF 19CH	511.750MHz	UHF 50CH	697.750MHz
UHF 20CH	517.750MHz	UHF 51CH	703.750MHz
UHF 21CH	523.750MHz	UHF 52CH	709.750MHz
UHF 22CH	529.750MHz	UHF 53CH	715.750MHz
UHF 23CH	535.750MHz	UHF 54CH	721.750MHz
UHF 24CH	541.750MHz	UHF 55CH	727.750MHz
UHF 25CH	547.750MHz	UHF 56CH	733.750MHz
UHF 26CH	553.750MHz	UHF 57CH	739.750MHz
UHF 27CH	559.750MHz	UHF 58CH	745.750MHz
UHF 28CH	565.750MHz	UHF 59CH	751.750MHz
UHF 29CH	571.750MHz	UHF 60CH	757.750MHz
UHF 30CH	577.750MHz	UHF 61CH	763.750MHz
UHF 31CH	583.750MHz	UHF 62CH	769.750MHz

10 定 格

- 受 信 周 波 数 : 0.01000~252.90000MHz 255.10000~261.90000MHz 266.10000~270.90000MHz
275.10000~379.90000MHz 382.10000~411.90000MHz 415.10000~809.90000MHz
834.10000~859.90000MHz 889.10000~914.90000MHz 960.10000~1300.00000MHz
※ただし、動作保証範囲は0.5~1300MHzの上記範囲内とする。

- 受 信 方 式 : スーパーヘテロダイン方式
- 電 波 形 式 : AM/FM/WFM
- 周 波 数 安 定 度 : 1300MHzにて±5ppm (±0°C~+50°C)
- 周 波 数 分 解 能 : 最小: 1kHz
- アンテナインピーダンス : 50Ω 不平衡、
- 中 間 周 波 数 : 1st : 266.7MHz、 2nd : 10.7MHz、 3rd : 450kHz (WFMモードを除く)

- 受 信 感 度 : (TYP.)

※BW = AM : 6kHz
FM : 15kHz
WFM : 230kHz

周波数範囲 (MHz)	AM (10dB S/N)	FM (12dB SINAD)	WFM (12dB SINAD)
0.5~1.799	8dBμ	保証外	保証外
1.8~29.999	5dBμ	-6dBμ*1	保証外
30~49.999	5dBμ	-6dBμ	保証外
50~699.999	0dBμ	-10dBμ	-2dBμ
700~1300	2dBμ	-8dBμ	0dBμ

*1 28~29.999MHzの範囲内

- ス ケ ル チ 感 度 : [Threshold]

※BW = AM : 6kHz
FM : 15kHz
WFM : 230kHz

周波数範囲(MHz)	AM	FM	WFM
0.5~1.799	5dBμ	————	————
1.8~29.999	-1dBμ	-4dBμ*2	————
30~49.999	-1dBμ	-4dBμ	————
50~699.999	-3dBμ	-6dBμ	15dBμ
700~1300	-1dBμ	-4dBμ	20dBμ

*2 28~29.999MHzの範囲内

- スケルチ感度：
[Tight]

周波数範囲(MHz)	AM	FM	WFM
0.5~27.999	110dB μ	————	————
28~49.999	110dB μ	110dB μ	————
50~1300	110dB μ	110dB μ	110dB μ

- 選 択 度：AM/FM 6kHz/-6dB (TYP.)
AM/FM 15kHz/-6dB (TYP.)
AM/FM/WFM 50kHz/-6dB (TYP.)
WFM 230kHz/-6dB (TYP.)
- 電 源 電 圧：DC13.8V \pm 15%、またはAC100V \pm 10% (ACアダプター使用)
- 接 地 方 式：マイナス接地
- 消 費 電 流：本体待ち受け時 100mA
受信スケルチクローズ 600mA
AF出力最大時 700mA
- 低 周 波 出 力：MONO 0.2W以上 (8 Ω /10%歪率時)
STEREO 0.1W \times 2以上 (8 Ω /10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス：4~8 Ω
- 外 形 寸 法：131(W) \times 33.5(H) \times 154.5(D)mm (突起物を除く)
- 重 量：約0.5kg
- 使 用 温 度 範 囲： \pm 0 $^{\circ}$ C~+50 $^{\circ}$ C

※定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市太白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

● サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。